

令和7年度  
授業計画

湘南歯科衛生士専門学校

履修科目一覧

卒業所要単位 115単位以上

	教育内容	授業科目	学年	単位数		教育内容	授業科目	学年	単位数
基礎分野	科学的思考の基盤	生物学	1	1	専門分野	歯科保健指導論	歯科保健指導論Ⅰ	1	3
		化学	1	1			栄養指導	1	1
		基礎数学	1	1			歯科保健指導論Ⅱ	2	2
	人間と生活	臨床歯科英語	1	2			歯科保健指導論Ⅲ	3	2
		基礎国語	1	2		歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	1	3
		心理学(人間行動学)	1	2			歯科診療補助論Ⅱ	2	2
	倫理学	1	1	臨床検査法			2	1	
小計		10	社会保険	2			1		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	1	2		臨地・臨床実習	歯科診療補助論Ⅲ	3	3
		組織・発生学	1	2			臨地・臨床実習Ⅰ	2	8
		生理学	1	1	臨地・臨床実習Ⅱ		3	12	
		生化学	1	2	小計		60		
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	1	2	選択必修分野	特別科目	コンピューター	1	1
		歯牙解剖(歯型彫刻)	1	2			看護概論	2	2
		口腔生理学	1	1			秘書実務(接遇マナー)	3	1
	疾病の成り及び回復の促進	病理学(口腔病理学)	1	2			医療事務Ⅰ	1	3
		微生物学(口腔微生物学)	1	2			課題(卒後)研究	3	1
	薬理学(歯科薬理学)	1	2	総合学習			3	8	
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学(1)	1	3	* 医療事務Ⅱ		2	3		
	口腔衛生学(2)	2	2	* 海外事情		2	2		
	衛生統計	2	1						
	衛生学・公衆衛生学	1	2						
衛生行政・社会福祉学	2	2							
栄養学	1	1							
小計		29		小計		21			
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	1	1	合計 120単位				
		医療倫理学	2	1	<p>&lt;履修に関する注意&gt;</p> <p>①卒業のために必要な授業科目および単位数に関する規定はきわめて厳格なものであって、1単位の不足があっても卒業は認められない。</p> <p>②授業科目の評価は、出席状況・試験・レポートなどの成績およびその他の学習作業の結果を総合して決められ、合格と判定された科目に対して所定の単位が与えられる。したがって試験の成績が合格に達していても、不合格となることがある。</p> <p>③卒業試験までに必要単位を修得しておかなければならない。</p> <p>④「臨地・臨床実習Ⅰ」は、歯科予防処置論Ⅰ・歯科保健指導論Ⅰ・歯科診療補助論Ⅰを履修した者でなければ履修できない。</p> <p>⑤臨地・臨床実習Ⅱは、歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ・歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ・歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱを履修した者でなければ履修できない。</p>				
	臨床歯科医学	歯科臨床概論	1	1					
		保存修復学	2	1					
		歯周療法学	2	1					
		歯内療法学	2	1					
		歯科補綴学	2	1					
		口腔外科学(麻酔学)	2	1					
		小児歯科学	2	1					
		歯科矯正学	2	1					
		歯科放射線学	2	1					
	高齢者歯科学	2	1						
	障害者歯科学	2	1						
	摂食・嚥下機能学	2	1						
	歯科予防処置論	歯科予防処置論Ⅰ	1	2					
歯科予防処置論Ⅱ		2	3						
歯科予防処置論Ⅲ		3	3						

\*は選択科目である

学年	学期	科目	単元	時間	回数	備考
1学年	46期	英語	英語	10	1	
		英語	英語	10	1	
		英語	英語	10	1	
		英語	英語	10	1	
		英語	英語	10	1	
	英語	英語	10	1		
	英語	英語	10	1		
	英語	英語	10	1		
	英語	英語	10	1		
	英語	英語	10	1		

学年	学期	科目	単元	時間	回数	備考

湘南歯科衛生士専門学校

1年生 46期生 52単位(945h)

&lt;基礎分野&gt; 10単位(150h)

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者
生物学	1	15	講義	前期	鈴木浩之
化学	1	15	講義	前期	伊藤 博
基礎数学	1	15	講義	前期	鈴木浩之
臨床歯科英語	2	30	講義	前期	川口 陽子
基礎国語	2	30	講義	前期	近藤 正臣
心理学(人間行動学)	2	30	講義	後期	岩井美路子
倫理学	1	15	講義	前期	関根 透

&lt;専門基礎分野&gt; 29単位(435h)

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者
解剖学	2	30	講義	後期	松尾 智子
組織・発生学	2	30	講義	前期	中村 雅典
生理学	1	15	講義	前期	大貫 芳樹
生化学	2	30	講義	後期	川瀬 俊夫
口腔解剖学	2	30	講義	後期	中村 雅典
歯牙解剖学(歯型彫刻)	2	30	講義	前期	松尾 智子
口腔生理学	1	15	講義	前期	大貫 芳樹
病理学(口腔病理学)	2	30	講義	後期	田中準一
微生物学(口腔微生物学)	2	30	講義	後期	長谷川 雅子
薬理学(歯科薬理学)	2	30	講義	後期	田村 幸彦
口腔衛生学(1)	3	45	講義	前期	平田 幸夫
衛生学・公衆衛生学	2	30	講義	後期	川口 陽子
栄養学	1	15	講義	後期	里見 節子

&lt;専門分野&gt; 11単位(300h)

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者		
歯科衛生士概論	1	30	講義	前期	荒川 浩久		
歯科臨床概論	1	30	講義	後期	荒川 浩久		
栄養指導	1	15	講義	後期	里見 節子		
歯科予防処置論Ⅰ*	2	60	講義・実習	前・後期	佐々木真理子	氏原真由	
歯科保健指導論Ⅰ*	3	75	講義	前・後期	野原 早苗	高橋温子	
歯科診療補助論Ⅰ*	3	90	講義・実習	前・後期	須藤遥香	高橋温子	大森 理乃

※実習科目は所定時間数の4分の3以上出席しなければならない。(\*)

※2年次「臨地・臨床実習Ⅰ」は、歯科予防処置論Ⅰ・歯科保健指導論Ⅰ・歯科診療補助論Ⅰを履修した者 でなければ履修できない。

&lt;選択必修分野&gt; 4単位(75h)

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者
コンピューター	1	30	講義・演習	後期	板倉 紀代子
医療事務Ⅰ	3	45	講義	後期	原 寿美子

基礎分野

担当科目	生物学			講師	鈴木 浩之	
時間(単位)数	1単位	15時間		実施時期	1学年	前期
一般目標(GIO)	生物に共通する様々な性質や仕組みを学び、医療分野に携わる職業人としての生物学の基礎知識を身に着ける。また生命の複雑性・神秘性を理解することにより、進化の頂点に位置するヒトに対する畏敬の念を育て、豊かな人間性を備えた専門職としての自覚を育成する。					
授業概要	46億年前に誕生した太陽系第三惑星である私たちの地球。地球誕生後、数億年を経て生命が発生し、長い進化の歴史とともに、ついに人類が誕生し、現在に至っている。その生命史を概観しながら、「生命とは」「生物とは何か」という視点で、その共通の特性について学ぶ。また私たちヒトの特性を理解しつつ「病・老化・寿命・死」についても考える。					
学習方法	講義・配布プリント・まとめ問題をもとに講義内容を理解する。	成績評価の方法		筆記試験 出席状況	95% 5%	
教科書	歯科衛生学シリーズ 生物学 歯科衛生学シリーズ 化学					
実務経験	なし					
授業計画						
No	授業項目	月	日	曜日	時間	到達目標(SBOs)
1	宇宙の歴史と元素の誕生	4	9	水	1.5	私達を構成する元素。その由来を宇宙の歴史とともに説明できる。
2	生命の誕生と進化	4	9	水	1.5	地球誕生から生命誕生、さらにその後の生物の進化史の概要を説明できる。
3	ヒトの誕生と進化の特徴	4	23	水	1.5	現生人類に至るまでのヒトの進化史とその特徴について説明できる。
4	生物の分類と学名	4	23	水	1.5	生物を分類する基準を学び、二名法による学名についても理解する。
5	細胞膜の機能	5	7	水	1.5	生命活動の基本単位である細胞、とりわけ細胞膜の働きについて学ぶ。
6	代謝と死	5	7	水	1.5	生命活動とは「代謝」である。また、その停止である細胞死、個体死についても考える。
7	微生物と感染症	5	21	水	1.5	人類を長い間苦しめてきた様々な病原体との戦いの歴史を知り、今なお続く感染症について学ぶ。
8	体を守る仕組み「免疫」	5	21	水	1.5	細菌やウイルスなどの病原体やガン細胞から守る仕組みである免疫についてその基礎を理解する。
9	老化と寿命	6	4	水	1.5	「寿命」とは生物の進化の過程で一部の生物が獲得した仕組みである。また「老化」との関係についても考察する。
10	試験・解説	6	13	金	1.5	講義内容のまとめ問題の中から100題(4択問題)を選んで出題する。

基礎分野

担当科目	化学				講師	伊藤 博	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	1学年	R7年度前期		
一般目標(GIO)	1. 歯科衛生士に必要な化学の基礎知識を習得する 2. 専門基礎分野で学習する生化学、生理学、薬理学に必要な基礎知識を習得する。						
授業概要	1. 化学の基礎を学習して、歯科衛生士として必要な化学知識を身に着ける。						
学習方法	講義・演習と演示実験をする。			成績評価の方法	筆記試験 80% 小テスト 20%		
教科書	最新 歯科衛生士教本「化学」 医歯薬出版						
参考図書	読み切り 化学史 東京書籍						
実務経験	高等学校および工業大学						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	錬金術の歴史	4	10	木	1	古代ギリシャの4元素説と、錬金術の歴史を理解する	
2	原子の構造	4	17	木	1	近代科学の発展、原子の構造について理解する	
3	原子の電子配置	4	24	木	1	電子殻のエネルギー順位と、電子配置について理解する	
4	同位体とその用途	5	1	木	1	同位体の性質、工業的用途について理解する	
5	原子量と分子量	5	8	木	1	原子量および分子量の決め方と、相対値について理解する	
6	molの意味と計算	5	15	木	1	物質量の考え方と、mol計算の演習	
7	水溶液の濃度計算	5	22	木	1	%濃度、vol%、W/V%、PPm、モル濃度について理解し、計算演習をする	
8	酸とアルカリの性質	5	29	木	1	代表的な酸、アルカリの性質と、その働きを理解する	
9	水素イオン濃度とPH	6	5	木	1	酸性、アルカリ性の強さを、対数を使いPHで表す方法を理解する	
10	光合成と生命合成	6	12	木	1	光合成の基本反応式と、生命合成の可能性について学ぶ	
11	学期末試験と解説				1	学習の到達度を確認する	
12							
13							
14							
15							
#							
#							
#							
19							
20							

基礎分野

担当科目	基礎数学		講師	鈴木 浩之		
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	1学年	前期	
一般目標(GIO)	<p>数学に対し苦手意識や嫌悪感を持つ人は少なくない。また、「数学って何の役に立つの?」「これを使う場面ってあるの?」と疑問に思う人もいるだろう。しかし、どのような職業であろうと、その仕事を進めるためには、それぞれの仕事に応じた数学分野というものが必ず存在する。したがって、数学を避けて通るわけにはいかない。しかし、だからといって、高等学校までに学習した数学の全分野をくまなく学ぶ必要もない。本講義では、医療分野で使われる数学内容に絞りこみ、できるだけ具体的な場面や事象を例に取り上げ、その演習を通して、歯科衛生士として必要な「数学力」を高めたいと考えている。</p>					
授業概要	<p>下記の授業計画に沿って講義を進めるが、下記到達目標の中に書かれた内容は、その回ごとの最も中心的な内容を見出し的に取りあげたものであり、その内容だけを学ぶものではない。また、その際には、数学上の問題を学びながらも、演習を通して細菌学、生理学、免疫学など生物学・医歯学の基礎知識とその応用についても、併せて習得してもらいたい。</p>					
学習内容	講義内容および配布プリントをもとに学習し、学習事項が身につくよう演習問題に取り組	成績評価の方法	定期試験 小テスト	80%	20%	
教科書	なし プリント配布					
参考図書	歯科衛生学シリーズ 化学 医歯薬出版					
実務経験	なし					
授業計画						
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)
1	四則演算のきまり	4	16	水	1.5	$[12 \div (-2)^3 \times 6 + 24] \div (-2^2) \div (-3) = ?$
2	分数と小数	4	16	水	1.5	分数と小数は兄弟
3	大きな数とべき乗	4	30	水	1.5	一人のヒトを作る細胞数は 37000000000000個。読むのも書くのも大変!
4	有効数字	4	30	水	1.5	豚肉100gと牛肉150.334gの合計の重さは 250.334g?
5	単位の換算	5	14	水	1.5	長さの単位 km m mm $\mu$ m nm の関係は?
6	割合と濃度の計算	5	14	水	1.5	濃度0.9%の生理食塩水100mlは どうやって作るの?
7	溶液の希釈	5	28	水	1.5	10%フッ素液から0.2%フッ素液500mlを作るには原液何mlが必要?
8	リスク比とオッズ比	5	28	水	1.5	統計的に喫煙と肺ガンの発症との関係について統計的に考える。
9	指数関数と対数	6	4	水	1.5	毎日1円、2円、4円、8円・・・と貯金すると30日目は、いくら必要?
10	試験・解説	6	13	金	1.5	定期試験には、講義の中で説明した問題を、数値を変える程度の改題で出題する予定である。出題形式は、計算問題ではあるが、しっかり取り組みれば、数学が苦手な人でも合格点に達するはずである。

専門分野

担当科目	臨床歯科英語				講師	川口 陽子	
時間(単位)数	2単位		30時間		実施時期	1学年	前期
一般目標(GIO)	歯科衛生士として必要な英語の専門用語や外国人患者との英会話を習得する。						
授業概要	歯科専門用語を英語で理解し、将来、歯科診療室において外国人患者に対応できるような実践的な英会話を学ぶ。また、海外の歯科情報を収集したり、海外研修を行う際に役立つ英語を学ぶために、インターネットを活用した課題演習を行って、レポートの提出や発表を行う。						
学習方法	講義 課題演習(自習、発表、レポート) 相互演習			成績評価の方法		筆記試験: 90% 課題演習: 5% 出席・態度: 5%	
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科英語」第1版 医歯薬出版						
参考図書	丸ごと覚える歯科臨床英会話フレーズ集 クインテッセンス出版						
実務経験	外国人患者の歯科治療と英語教育の経験、留学経験(オーストラリア、米国)						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	日本の歯科衛生士	4	11	金	1.5	日本の歯科衛生士について英語で理解し、説明できる。英語で自己紹介ができる。	
2	歯科専門用語	4	11	金	1.5	基本的な歯科専門用語について英語で理解し、説明できる。	
3	診療室での英会話①	4	18	金	1.5	受付での会話(診療前)について英語で理解し、説明できる。	
4	診療室での英会話②	4	18	金	1.5	受付での電話対応について英語で理解し、説明できる。	
5	診療室での英会話③	4	25	金	1.5	患者への問診、質問票について英語で理解し、説明できる。	
6	診療室での英会話④	4	25	金	1.5	基本的な医学用語について英語で理解し、説明できる。	
7	世界の歯科衛生士①	5	15	木	1.5	世界の歯科衛生士の概要について理解する。(学生による課題発表)	
8	世界の歯科衛生士②	5	15	木	1.5	世界の歯科衛生士の概要について理解する。(学生による課題発表)	
9	世界の歯科衛生士③	6	18	水	1.5	世界の歯科衛生士の概要について理解する。(日本との比較)	
10	診療室での英会話⑤	6	18	水	1.5	治療内容の説明と術後の注意事項について英語で理解し、説明できる。	
11	診療室での英会話⑥	6	20	金	1.5	う蝕の予防について英語で理解し、説明できる。	
12	診療室での英会話⑦	6	20	金	1.5	子供対象の臨床歯科英語を理解し、説明できる。	
13	診療室での英会話⑧	7	2	水	1.5	歯周病の予防について英語で理解し、説明できる。	
14	診療室での英会話⑨	7	2	水	1.5	ブラッシング指導について英語で理解し、説明できる。	
15	診療室での英会話⑩	7	9	水	1.5	受付での会話(治療後)について英語で理解し、説明できる。	
16	復習・まとめ	7	9	水	1.5	臨床歯科英語の学習内容を復習し、理解を深める。	
17	試験・解説	7	16	水	3		
18							
19							
20							



基礎国語 令和7年度

2025年度 講義の概要 (シラバス) 毎回 1h (9:00~10:30)・2h (10:40~12:10)

担当科目	基礎国語		講師	近藤 正臣	
時間 (単位数)	2 単位	27 時間	実施時期	1 学年	前期
一般目標 (GIO)	①国語全般に亘る幅広い基礎知識・一般常識を習得する。 ②文章表現法やビジネス文書、スピーチの仕方等に関する事柄も逐次学び、実践する。 ③俳句・短歌の実作を通して、言葉のリズム・物の見方・考え方を学ぶ。また、創作することの難しさ・楽しさ・喜びを味わう。更に、鑑賞する態度を養う。				
授業概要	テキストとプリント教材を用い、国語全般の知識・常識等を学びつつ教養を高める また、意欲的に取り組む姿勢の涵養を図り、将来の生活・職業に於いて役立てる。				
学習方法	講義・演習	成績評価の方法	定期試験85%、提出物10%、授業状況5%		
教科書 (テキスト)	テスト式 国語の常識の総演習 (修訂三版 増補)		株式会社 啓隆社		
参考図書	『何でもわかる 文章の書き方百科』		平井 昌夫	三省堂	
	『新総合 図説国語』、『マイロード21』		池内 輝義 他	東京書籍 実況出版 他	

授業計画

回	授業項目	到達目標 (SBOs)	日程
1	①オリエンテーション ②入学前の課題に対する解答と説明 ③テキスト 第1・2回	①「開講説明・実施方法・評価方法」等に関して ②課題に対する解答と説明による全体理解 ③テキスト問題の解答・解説による理解	4 /08 火
	④「3・3方式による文章表現」Ⅰ ⑤「俳句・短歌」に関して	④「3行3段落構成書き」による「自己紹介」→ 相互批評→提出 ⑤俳句・短歌の作り方の理解	
2	①「3・3方式による文章表現」Ⅱ ②テキスト 第3・4回 ③テキスト 第5・6回	①「3行3段落構成書き」による「未来像」について→ 相互批評→提出 ②テキスト問題の解答・解説による理解 ③テキスト問題の解答・解説による理解	4 /15 火
	①作文・小論文の書き方」に関して ②近代俳句・近代短歌等について ③近世俳句・古典和歌等について	①文章の手順・禁止事項・上達法等について ②テキスト中の近代俳句・近代短歌等の読解・鑑賞 ③テキスト中の近世俳句・古典和歌等の読解・鑑賞	
4	①「俳句・短歌」の創作・合評 ②テキスト 第7・8回	①「俳句・短歌の創作プリント」に1句・1首を記入。相互批評→提出 ②テキスト問題の解答・解説による理解	5 /13 火
5	「ビジネス文書」・「礼状の書き方」に関して	「ビジネス文書」・「礼状の書き方の基本・礼状例」等 (実践)	5 /20 火
6	①テキスト 第9・10回 ②テキスト 第11・12回	①テキスト問題の解答・解説による理解 ②テキスト問題の解答・解説による理解	5 /27 火
	7	社会人としてのマナー・電話のかけ方等について	
8	①「スピーチの訓練」に関して ②「スピーチの実践」(1) ③「スピーチの実践」(2)	①話し方のテクニック・話し手の態度・避けたい癖・話の準備と組み立て等について ②「スピーチの発表①」(チェック・講評) ③「スピーチの発表②」(チェック・講評)	6 /10 火
	9	①「スピーチの実践」(3) ②「全体のまとめ」に関して	
10	試験	試験実施・解説	6 /17 火

- 備考
- ①「授業計画・内容」に基づくテキストの問題・課題等は、毎回、事前学習をしてくること。
  - ② テキスト・資料等を使用するので、忘れることなく、必ず持参すること。
  - ③ 進捗状況によっては、授業内容の変更もあります。
  - ④ 提出物は、期限遵守で行うこと。

専門分野

担当科目	心理学				講師	岩井美路子	
時間(単位)数	2単位	30時間		実施時期	1学年	後期	
一般目標(GIO)	日常生活におけるさまざまな人間行動のメカニズムを理解する・各発達段階における心理・精神的特徴について体系的に理解する・学んだことを生活や社会のなかで生かせるようになる						
授業概要	心理学の基本的な研究や理論をスライドを提示しながら具体的に紹介する 日常生活や人間の行動との関係性を考える						
学習方法	受動的方法:講義・図や動画の視聴 能動的方法:リフレクション ペーパー			成績評価の方法	筆記試験 70% 課題解答・リフレクションペーパー 30%		
教科書	指定なし(毎回資料を配布する)						
参考図書	『心理学』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版						
実務経験	地域活動支援センター(精神障害福祉)勤務(精神保健福祉士・公認心理師)						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	オリエンテーション	9	30	火	1.5	心理学とはなにかを知る	
2	ライフサイクルの意味	9	30	火	1.5	エリクソンの発達理論の概要をつかむ	
3	遺伝と環境	10	7	火	1.5	遺伝要因と環境要因の人に与える影響の違いを理解する	
4	感覚と知覚	10	7	火	1.5	感覚と知覚とはなにかを知る	
5	記憶	10	14	火	1.5	人の記憶の仕組みを知る	
6	乳児期のころ	10	14	火	1.5	乳児期のころの発達について特徴を理解し、語句の説明ができる	
7	ことばの獲得	10	21	火	1.5	人はどのようにことばを獲得していくのかを理解する	
8	幼児期のころ	10	21	火	1.5	幼児期のころの発達について特徴を理解し、語句の説明ができる	
9	児童期・思春期のころ	10	28	火	1.5	児童期のころの発達について特徴を理解し、語句の説明ができる	
10	青年期の友人関係と家族関係	10	28	火	1.5	青年期の友人関係と家族関係の特徴を理解し、語句の説明ができる	
11	青年期と恋愛	11	4	火	1.5	恋愛に関する研究を理解する	
12	自己とパーソナリティ	11	4	火	1.5	自己の発達とパーソナリティについて理解する	
13	青年期のころ	11	11	火	1.5	青年期のころの発達について特徴を理解し、語句の説明ができる	
14	成人期のころ	11	11	火	1.5	成人期のころの発達について特徴を理解し、語句の説明ができる	
15	老年期のころ	11	18	火	1.5	老年期のころの発達について特徴を理解し、語句の説明ができる	
16	まとめ	11	18	火	1.5	講義を振り返り、要点の再確認をする	
17	試験	11	25	火	1.5	試験	
18	解説	11	25	火	1.5	試験の解説	
19							
20							

専門分野

担当科目	倫理学				講師	関根透	
時間(単位)数	1単位	15時間		実施時期	1学年	前期	
一般目標(GIO)	倫理思想を説明するので、それを参考に「今ここに生きる」自分の真の生き方を考えて下さい。特に、患者や被験者の人権を尊重した国際的なアドボケートになってほしい。						
授業概要	西欧の先人の倫理的叡智を歴史に沿って説明するので、自分の生き方に生かしてほしい。						
学習方法	講義(スライドを使用)			成績評価の方法	筆記試験	90%	
					出欠席	10%	
教科書	担当教員作成の配布プリント						
参考図書	『人間探求の流れ』北樹出版						
実務経験	金	鶴見大歯学部、神奈川歯大、横浜市大医学部、東京女子医科大学等で20年以上講義					
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	倫理学の意義、意味	5	9	金	1.5	オリエンテーション、現代日本の医療倫理の倫理的状況、医療倫理の意味と意義を説明する。	
2	古代ギリシャの倫理思想(1)	5	16	金	1.5	古代ギリシャの倫理思想の起こり、ソクラテス前のミレトスとイタリアの学派を説明する。	
3	古代ギリシャの倫理思想(2)	5	30	金	1.5	三大思想家ソクラテス、プラトン、アリストテレスの倫理思想を説明する。	
4	ルネサンスと宗教改革(1)	6	6	金	1.5	中世キリスト教を概略し、ルネサンスの原因と発展を説明する。	
5	ルネサンスと宗教改革(2)	6	13	金	1.5	宗教改革者ルター等の考え方や意義を説明し、なぜ理性の時代になったかを説明する。	
6	近代の倫理思想の流れ	6	20	金	1.5	理性に基づくイギリス経験論と大陸合理論の比較と倫理的意義について説明する。	
7	フランス啓蒙主義が革命で実現	7	4	金	1.5	フランス啓蒙主義、ドイツ観念論を概観して、実存思想が起こったことを説明する。	
8	ドイツ観念論から実存主義へ	7	11	金	1.5	サルトルを中心に説明し、他の現代思想を紹介する。	
9	定期試験とその解説	7	18	金	1.5	定期試験とその解説をする。	
10							
11							
12							
13							

専門分野

担当科目	解剖学				講師	松尾智子	
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	1学年	後期		
一般目標(GIO)	歯科医学の基本である人体の構造を系統的に理解する。それぞれの臓器の相互の位置関係と影響などを考察する。						
授業概要	人体の構造を図や画像を通して臓器の構造と機能を理解し、基本的解剖学用語を身につける。						
学習方法	講義			成績評価の方法		筆記試験 90%	小テスト・レポート 10%
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 口腔顎顔面解剖ノート						
参考図書							
実務経験	病院・歯科医院での実務経験あり						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	解剖学概論	9	4	木	1.5	基礎医学の中での解剖学の位置づけを理解する。	
2	骨学Ⅰ	9	4	木	1.5	全身骨格の基本的構成とそのつながりを理解する。	
3	骨学Ⅱ	9	11	木	1.5	骨の種類や関節の基本的構成とそのつながりを理解する。	
4	筋学Ⅰ	9	11	木	1.5	筋の種類や分類を理解する。	
5	筋学Ⅱ	9	18	木	1.5	骨格筋の骨格との結合とその働き、および体腔の構成を理解する。	
6	脈管学Ⅰ	9	18	木	1.5	心臓の構造と機能を理解する。	
7	脈管学Ⅱ	9	25	木	1.5	血管系の構成とそのつながりを理解する。	
8		9	25	木	1.5	リンパ系の構成とそのつながりを理解する。	
9	消化器	10	2	木	1.5	消化器系の構成と身体における位置関係を理解する。	
10	呼吸器	10	2	木	1.5	気道の構成と肺の構造、発声器の構造を理解する。	
11	泌尿器	10	9	木	1.5	腎臓と尿管、膀胱、尿道の構造を知り、尿の生成、輸送と蓄積、排泄を理解する。	
12	生殖器	10	9	木	1.5	女性、男性の生殖器の構造と身体における位置関係を理解する。	
13	内分泌腺	10	16	木	1.5	内分泌腺の身体における位置関係と構造を理解する。	
14	神経系Ⅰ	10	16	木	1.5	中枢神経系の構造とつながりを理解する。	
15	神経系Ⅱ	10	23	木	1.5	末梢神経系の構造とつながりを理解する。	
16	感覚器	10	23	木	1.5	主に特殊感覚、体性感覚の受容器の構造と働きを理解する。	
17	試験	10	30	木	1.5		
18	解剖学と臨床	10	30	木	1.5	今後の臨床科目学習につながる項目の理解を深める。	
19	試験解説	11	6	木	1.5		
20	解剖学実習事前講義	11	6	木	1.5	解剖学実習へむけての心得などを理解する。	

担当科目	組織発生学				講師	中村雅典	
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	1 学年	前期		
一般目標(GIO)	生体の正常機能ならびに異常を理解するために生体を構成する組織、器官の微細構造を学ぶ。人体と口腔の発生過程を理解する。						
授業概要	板書とスライドを用いて人体を構成する細胞、組織、口腔組織ならびに人体の発生と口腔発生について解説する。						
学習方法	講義	成績評価の方法			中間試験	30%	
					定期試験	60%	
					出席	10%	
教科書	①最新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・生理学」 ②最新歯科衛生士教本「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」						
参考図書							
実務経験	東北大学歯科病院(保存科)で診療						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	細胞①	6	23	月	1.5	細胞の構造と役割(細胞膜、核)について説明できる。使用教科書①	
2	細胞②	6	23	月	1.5	細胞の構造と役割(細胞内小器官)について説明できる。使用教科書①	
3	上皮組織①	6	30	月	1.5	上皮組織の種類について説明できる。使用教科書①	
4	上皮組織②	6	30	月	1.5	上皮組織の種類と腺組織の種類について説明できる。使用教科書①	
5	支持組織①	7	7	月	1.5	支持組織の種類と特徴について説明できる。使用教科書①	
6	支持組織② 筋組織	7	7	月	1.5	骨と軟骨の構造について説明できる。使用教科書① 筋組織の種類と形態の特徴、機能について説明できる。使用教科書①	
7	神経組織	7	14	月	1.5	神経組織の種類と形態の特徴、機能について説明できる。使用教科書①	
8	人体の発生	7	14	月	1.5	人体の初期発生について説明できる。使用教科書①	
9	中間試験と解説	7	28	月	1.5	講義内容について知識確認のための筆記試験を行う。	
10	総括	7	28	月	1.5	これまでの内容についての総まとめを行う。	
11	エナメル質	9	1	月	1.5	エナメル質の構造と特徴を説明できる。使用教科書②	
12	象牙質、歯髄	9	1	月	1.5	象牙質・歯髄の構造と特徴を説明できる。使用教科書②	
13	セメント質、歯根膜	9	8	月	1.5	セメント質と歯根膜の構造及び機能について説明できる。使用教科書②	
14	歯肉、歯槽骨	9	8	月	1.5	歯肉と歯槽骨の構造及び特徴を説明できる。使用教科書②	
15	歯・歯周組織の発生	9	16	火	1.5	歯・歯周組織の発生について説明できる。使用教科書②	
16	歯の萌出と脱落	9	16	火	1.5	歯の萌出と脱落について説明できる。使用教科書②	
17	顔面と口腔の発生	9	22	月	1.5	顔面と口腔の発生について説明できる。使用教科書②	
18	組織・発生学まとめ	9	22	月	1.5	本科目の重要事項をまとめ、歯科衛生士に必要な知識の確認を行う。使用教科書①&②	
19	定期試験	10	6	月	1.5	組織発生学全範囲について筆記試験を行う。	
20	定期試験解説と総括	10	6	月	1.5	試験問題の解説と全範囲についての総まとめを行う。	

専門分野

担当科目	生理学				講師	大貫芳樹	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	1学年	前期		
一般目標(GIO)	人体の正常な生理機能を理解し、歯科臨床を学ぶ上での基礎知識を習得する。						
授業概要	人体の生理機能を、器官系ごとに分けて学習する。また、器官系間の相互作用についても学習する。						
学習方法	講義・宿題			成績評価の方法	筆記試験 90% 出席・宿題 10%		
教科書	最新歯科衛生士教本／人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版						
参考図書							
実務経験	なし						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	生理学概論	4	10	木	1.5	生理学について説明できる。	
2	細胞と体液・血液	4	10	木	1.5	細胞および細胞内小器官の機能を説明できる。また、体液・血液の組成と機能を説明できる。	
3	循環と呼吸	4	17	木	1.5	循環器系および呼吸器系の機能を説明できる。	
4	筋、神経および感覚	4	17	木	1.5	筋系、神経系および感覚器系の機能を説明できる。	
5	消化と吸収	4	24	木	1.5	消化器系の機能を説明できる。	
6	内分泌	4	24	木	1.5	内分泌系の機能を説明できる。	
7	腎臓と排泄	5	1	木	1.5	排泄器系の機能を説明できる。	
8	発生と生殖、体温	5	1	木	1.5	生殖器系の機能を説明できる。また、体温の調節機序を説明できる。	
9	試験・解説	5	8	木	3		
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

担当科目	生化学				講師	川瀬俊夫		
時間(単位)数	2単位	30時間		実施時期	1 学年	前期		
一般目標(GIO)	生体を構成する生体分子の化学的特徴とそれらの動態を習得する。歯・口腔の特性を生化学的に理解し、歯科衛生領域で起こっていることに、分子レベルで考える能力を習得する。							
授業概要	生命活動を営む生体の構成要素を生体分子の化学として理解する。細胞で起こっている物質代謝を学習し、多様な機能をもった生体分子の特性を学習する。歯と各口腔組織の構成成分(分子)の特徴を学習する。う蝕や歯周疾患の発生要因を学習する。							
学習方法	講義と演習			成績評価の方法		期末試験		
教科書	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」 医歯薬出版							
参考図書	最新歯科衛生士教本「化学」「人体の構造と機能3 栄養学」			医歯薬出版				
	最新歯科衛生士教本「保健生態学」第3版			医歯薬出版				
実務経験	歯科大学での「生化学」および歯科衛生士学校(短大・専門学校)での教育経験							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	生体の構成要素①	5	21	水	1.5	細胞の構造と細胞小器官の機能を説明できる。情報伝達機構について概説できる。		
2	生体の構成要素②	5	21	水	1.5	水の性質と生体分子との関係を説明できる。糖質と脂質の構造の特徴と種類を説明できる。		
3	生体の構成要素③	5	28	水	1.5	タンパク質の構造と機能を説明できる。ビタミンの種類と機能を概説できる。		
4	生体における化学反応	5	28	水	1.5	糖質・脂質・タンパク質の消化と吸収を説明できる。酵素の機能を説明できる。		
5	糖質、脂質、タンパク質の代謝①	6	4	水	1.5	糖質・脂質・タンパク質の動態を概説できる。糖質の代謝とエネルギーの生成を説明できる。		
6	糖質、脂質、タンパク質の代謝②	6	4	水	1.5	脂質の代謝とエネルギー生成過程を説明できる。タンパク質とアミノ酸の代謝を説明できる。		
7	物質代謝の相互関連	6	11	水	1.5	糖質、脂質、タンパク質(アミノ酸)代謝の相互関連を説明できる。		
8	遺伝子とタンパク質の合成①	6	11	水	1.5	DNAの基本構造を説明できる。遺伝子の役割とセントラルドグマについて説明できる。		
9	遺伝子とタンパク質の合成②	6	18	水	1.5	遺伝子の発現とタンパク質の合成の過程について説明できる。		
10	人体の恒常性の維持	6	18	水	1.5	血液のpHと血糖値の重要性を説明できる。		
11	歯と歯周組織①	6	25	水	1.5	結合組織の組成と機能について概説できる。コラーゲンの性質と合成過程を説明できる。		
12	歯と歯周組織②	6	25	水	1.5	歯の無機成分の特徴と歯を構成する特徴的なタンパク質を説明できる。		
13	硬組織①	7	2	水	1.5	血中カルシウム濃度調節機構を説明できる。骨形成と石灰化のメカニズムを概説できる。		
14	硬組織②	7	2	水	1.5	骨と歯を構成する無機成分と有機成分を説明できる。骨のリモデリング(骨改造)を説明できる。		
15	硬組織③	7	9	水	1.5	ヒドロキシアパタイトの脱灰と再石灰化のフッ化物の役割を説明できる。		
16	唾液の機能	7	9	水	1.5	唾液の組成と機能について、11項目上げ説明できる。		
17	プラークの病原性①	7	16	水	1.5	プラークの形成過程を説明できる。プラークの酸産生能を説明できる。		
18	プラークの病原性②	7	16	水	1.5	プラーク中のう蝕の発生過程を説明できる。Stephenカーブから脱灰と再石灰化を説明できる。		
19	プラークの病原性③	7	23	水	1.5	プラークによる歯周病の発生過程を概説できる。		
20	試験・解説	7	23	水	1.5			

担当科目	口腔解剖学				講師	中村雅典	
時間(単位)数	2単位	30時間		実施時期	1 学年	後期	
一般目標(GIO)	口腔および顎顔面の正常構造および機能について理解し、歯科衛生士に必要な口腔解剖学的知識を修得する。						
授業概要	板書とスライドを用いて口腔領域を中心とした頭頸部の解剖学を系統的に解説する。						
学習方法	講義			成績評価の方法		中間試験 30% 定期試験 60% 出席 10%	
教科書	最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版株式会社)						
参考図書	口腔顎顔面解剖ノート(学建書院)						
実務経験	東北大学歯科病院(保存科)で診療						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	口腔解剖学概論/口腔内臓①	10	20	月	1.5	消化器系の入口としての口腔の構造機能を説明できる。顎顔面口腔を構成する構造(口腔、鼻腔、副鼻腔)について説明できる。	
2	口腔内臓②	10	20	月	1.5	唾液腺、咽頭と喉頭の構造と機能について説明できる。	
3	頭蓋の骨①	10	27	月	1.5	顎顔面頭蓋を構成する骨の名称および構造を説明できる。	
4	頭蓋の骨②	10	27	月	1.5	上顎骨、下顎骨、口蓋骨の構造を説明できる。	
5	頭蓋の骨③	11	10	月	1.5	側頭骨、蝶形骨の構造を説明できる。	
6	頭蓋の骨④	11	10	月	1.5	翼口蓋窩、鼻腔、眼窩の構造を説明できる。	
7	頭頸部の筋①	11	17	月	1.5	頭部の筋(顔面筋、咀嚼筋)の名称と機能を説明できる。	
8	頭頸部の筋②/顎関節	11	17	月	1.5	顎部の筋の名称と機能を説明できる。顎関節の構造および作用を説明できる。	
9	中間試験と解説	12	1	月	1.5	講義内容について知識確認のための筆記試験とその解説を行う。	
10	総括	12	1	月	1.5	これまでの内容についての総まとめを行う。	
11	頭頸部の脈管系①	12	8	月	1.5	頭頸部に分布する動脈を説明できる。	
12	頭頸部の脈管系②	12	8	月	1.5	頭頸部に分布する静脈とリンパ節を説明できる。	
13	頭頸部の神経系①	12	15	月	1.5	脳神経の種類を説明できる。	
14	頭頸部の神経系②	12	15	月	1.5	三叉神経、顔面神経を説明できる。	
15	頭頸部の神経系③	12	22	月	1.5	舌咽神経、迷走神経、舌下神経を説明できる。	
16	頭頸部の神経系④	12	22	月	1.5	頭頸部の脊髄神経、自律神経を説明できる。	
17	口腔解剖学総括①	1	19	月	1.5	本科目の重要事項(口腔内臓、骨、筋)をまとめ、歯科衛生士に必要な知識の確認を行う。	
18	口腔解剖学総括②	1	19	月	1.5	本科目の重要事項(脈管、神経)をまとめ、歯科衛生士に必要な知識の確認を行う。	
19	定期試験	1	26	月	1.5	口腔解剖学全範囲について筆記試験を行う。	
20	定期試験解説と総括	1	26	月	1.5	試験問題の解説と全範囲についての総まとめを行う。	



担当科目	歯牙解剖学				講師	松尾智子	
時間(単位)数	2単位	30時間		実施時期	1学年	前期	
一般目標(GIO)	歯科衛生士としての基礎知識として、歯の外形、咬頭や隆線、溝などの形態的特徴を学ぶと同時に、隣接歯との接触や歯列と咬合について習得する。						
授業概要	講義で得られた知識を立体的イメージとして再現するために模型を観察してスケッチを描いたり、歯の鑑別実習を行う。						
学習方法	講義			成績評価の方法	筆記試験 90% 小テスト・レポート 10%		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 口腔顎顔面解剖ノート						
参考図書							
実務経験	病院・歯科医院での実務経験あり						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	歯型解剖学概論	4	14	月	1.5	歯と顎骨の生物学的意義や定義、起源、機能について理解する。	
2		4	14	月	1.5	歯の種類、名称、記号、方向用語を学習し理解する。	
3	切歯	4	21	月	1.5	上顎中切歯と側切歯の形態と特徴を理解する。	
4		4	21	月	1.5	下顎中切歯と側切歯の形態と特徴を理解する。	
5	犬歯	4	28	月	1.5	上下顎犬歯の歯種別形態と特徴を理解する。	
6		4	28	月	1.5	歯の記号を覚えるため小テストをおこなう。	
7	鑑別実習(前歯部)	5	12	月	1.5	天然歯を用いて歯の鑑別をおこなう。	
8	上下顎小白歯	5	12	月	1.5	小白歯部の歯種別形態と特徴を理解し、歯根数と歯髓腔、根管の構造を知る。	
9		5	19	月	1.5	上顎小白歯と下顎小白歯、また第一小白歯と第二小白歯の差異、咬合関係について理解する。	
10	上顎大白歯	5	19	月	1.5	上顎大白歯部の歯種別形態と特徴を理解し、歯根数と歯髓腔、根管の構造を知る。	
11		5	26	月	1.5	また、咬頭の成り立ちやカラベリー結節、斜走隆線について知る。	
12	下顎大白歯	5	26	月	1.5	下顎大白歯部の歯種別形態と特徴を理解し、歯根数と歯髓腔、根管の構造を知る。	
13		6	2	月	1.5	また、咬頭の成り立ちやドリオピテクスパターンについて知る。	
14	鑑別実習(臼歯部)	6	2	月	1.5	天然歯を用いて歯の鑑別をおこなう。	
15	乳歯総論	6	9	月	1.5	乳歯の特徴について永久歯と比較して理解できる。	
16	乳歯各論	6	9	月	1.5	乳前歯、乳臼歯それぞれの形態の特徴について永久歯と比較して理解できる。	
17	歯の形態異常	6	16	月	1.5	正常歯と比較した形態異常を理解する。	
18	歯列と咬合	6	16	月	1.5	上下顎の歯の咬合様式、咬合位と咬合平面について理解する。	
19	試験	6	23	月	1.5		
20	試験解説	6	23	月	1.5		

専門分野

担当科目	口腔生理学				講師	大貫芳樹	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	1学年	前期		
一般目標(GIO)	口腔領域の正常な生理機能を理解し、歯科臨床を学ぶ上での基礎知識を習得する。						
授業概要	口腔の生理機能を、歯、口腔感覚、味覚、咀嚼、嚥下、唾液、発声の7つの領域に分けて学習する。						
学習方法	講義・宿題			成績評価の方法	筆記試験 90% 出席・宿題 10%		
教科書	最新歯科衛生士教本／歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版						
参考図書							
実務経験	なし						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	口腔生理学概論	5	22	木	1.5	口腔生理学について説明できる。	
2	歯および歯周組織の構造と機能	5	22	木	1.5	歯および歯周組織の構造と機能を説明できる。	
3	咬合と咀嚼・吸啜	5	29	木	1.5	咬合と咀嚼・吸啜について説明できる。	
4	口腔感覚	5	29	木	1.5	口腔の体性感覚について説明できる。	
5	味覚と嗅覚	6	5	木	1.5	味覚と嗅覚について説明できる。	
6	嚥下と嘔吐	6	5	木	1.5	嚥下と嘔吐について説明できる。	
7	唾液と唾液腺	6	12	木	1.5	唾液および唾液腺の機能を説明できる。	
8	発声	6	12	木	1.5	発声・発語機構について説明できる。	
9	試験・解説	6	19	木	3		
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

担当科目	病理学・口腔病理学				講師	田中準一	
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	I 学年	後期		
一般目標 (GIO)	歯科衛生士として必要な疾病の概念を修得するために、全身および口腔領域の疾病の成り立ちや特徴を理解する。						
授業概要	病理学総論において疾病の基本的概念について学修し、病理学各論において口腔領域の病変について具体的に学修する。						
学習方法	講義		成績評価の方法	筆記試験 100%			
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学						
参考図書	なし						
実務経験	昭和大学歯科病院・昭和大学病院での病理診断11年						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標 (SBOs)	
1	病理学序論と病因論、遺伝性疾患と奇形	10	7	火	3	病気の原因について説明できる。遺伝性疾患、奇形を分類し説明できる。	
2	循環障害、代謝障害と退行性病変	10	14	火	3	循環障害を分類し説明できる。代謝障害と退行性病変を説明できる。	
3	増殖と修復、炎症と免疫応答異常	10	21	火	3	組織の増殖と修復について説明できる。	
4	腫瘍	10	28	火	3	腫瘍を分類し説明できる。	
5	歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物	11	4	火	3	歯の発育異常を分類し説明できる。歯の損傷と着色・付着物について分類できる。	
6	う蝕、象牙質・歯髄複合体の病態	11	11	火	3	う蝕を分類し説明できる。象牙質・歯髄複合体の病態について分類し説明できる。	
7	歯周組織の病態、口腔粘膜の病変	11	18	火	3	歯周組織の病態について分類し説明できる。口腔粘膜の病変について分類し説明できる。	
8	口腔領域の嚢胞と腫瘍、口腔癌	11	25	火	3	口腔領域の嚢胞と腫瘍について分類し説明できる。口腔癌について分類し説明できる。	
9	顎骨の病変、唾液腺の病変、口腔領域の奇形と加齢変化	12	2	火	3	顎骨の病変を分類し説明できる。唾液腺の病変を分類し説明できる。口腔領域の奇形および加齢変化を説明できる。	
10	試験、解説	12	9	火	3	試験により到達度を評価し、解説を通じて知識の定着を図る。	
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

専門分野

担当科目	微生物				講師	長谷川雅子		
時間(単位)数	2 単位	30	時間	実施時期	1	学年	前期	
一般目標 (GIO)	一般微生物の基礎知識を習得する。 免疫学の基礎を習得する。 口腔環境と口腔常在微生物、口腔内の疾病を理解する。							
授業概要	微生物の特徴、全身と口腔の感染症について理解する。 宿主の免疫反応、ワクチン、アレルギーについて理解する。 感染予防対策について理解する。							
学習方法	教科書をノートがわりにし、どこに何が記載されていて、重要項目がどこにあるかを理解しながら進めていく				成績評価の方法	筆記試験:95%、出席:5%		
教科書	第2版 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 医歯薬出版							
参考図書	なし							
実務経験	鶴見大学大学院歯学研究科微生物修了。歯学部附属病院・一般歯科医院での臨床経験あり。他校の衛生士専門学校にて微生物講義を担当。							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標 (SBOs)		
1	微生物学の概要	10	27	月	3	微生物の種類、分類、感染の種類、微生物の歴史		
2	微生物学総論	11	10	月	3	細菌、ウイルス、真菌 微生物の培養、観察、検査		
3	化学療法、滅菌と消毒	11	17	月	3	化学療法、消毒と滅菌 スタンダードプレコーション		
4	口腔微生物学	12	1	月	3	口腔環境、唾液、歯肉溝滲出液 ペリクル、プラーク バイオフィーム		
5	口腔微生物学	12	8	月	3	齲蝕、歯周病、その他の口腔感染症		
6	病原微生物	12	15	月	3	細菌 G(+)-C, G(+)-R		
7	病原微生物	12	22	月	3	細菌 G(-)-C, G(-)-R		
8	病原微生物	1	19	月	3	歯科に関連するウイルス、真菌 プリオン		
9	免疫学	1	26	月	3	宿主防御機構、アレルギー		
10	期末試験	2	2	月	3	試験、試験解説		
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

担当科目	薬理学(歯科薬理学)				講師	田村幸彦	
時間(単位)数	2単位	30時間		実施時期	1 学年	後期	
一般目標(GIO)	薬物の作用の分類、薬物動態、連用および併用による影響などについて理解する。 歯科および他科で処方される医薬品の薬理作用、作用機序および相互作用を理解する。						
授業概要	医療従事者として医薬品の薬理作用を理解し、臨床で汎用される薬物を安全かつ効果的に活用するために必要な基礎知識を学習する。						
学習方法	講義・ビデオ・宿題			成績評価の方法	筆記試験 90% 出席・小試験 10%		
教科書	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学」 医歯薬出版						
参考図書							
実務経験	東京医科歯科大学(歯学部歯学科・口腔保健学科)にて教育および研究経験あり						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	薬理作用の基本形式	10	24	金	1.5	薬物療法の種類、薬理作用の様式と基本形式について理解し説明できる。	
2	薬物動態	10	24	金	1.5	薬物の作用の分類、薬物動態、連用および併用による影響などについて理解し説明できる。	
3	薬物の適用方法	10	31	金	1.5	適用法の種類と適用方法の違いによる血中濃度の推移について理解し説明できる。	
4	薬理作用に影響を与える要因	10	31	金	1.5	薬効に影響を与える因子と生体の感受性および薬物相互作用について理解し説明できる。	
5	薬物の有害作用	11	7	金	1.5	薬物の有害作用の分類と原因およびその予知と回避について理解し説明できる。	
6	医薬品適用時の注意	11	7	金	1.5	ライフステージと薬物および服薬指導、処方箋について理解し説明できる。	
7	医薬品関連法規	11	14	金	1.5	医薬品医療機器等法、日本薬局方、医薬品の表示と保管について理解し説明できる。	
8	ビタミンとホルモン	11	14	金	1.5	ビタミンおよびホルモンの欠乏症や過剰に対する薬剤について理解し説明できる。	
9	末梢神経系作用薬	11	21	金	1.5	自律神経系作動薬の薬理作用や作用機序について理解し説明できる。	
10	中枢神経系作用薬	11	21	金	1.5	全身麻酔薬や抗不安薬など中枢神経系作用薬の薬理作用や作用機序について理解し説明できる。	
11	循環器系作用薬	11	28	金	1.5	降圧薬や狭心症治療薬などの循環器系作用薬の薬理作用や作用機序について理解し説明できる。	
12	呼吸器系作用薬	11	28	金	1.5	気管支喘息治療薬や鎮咳薬などの呼吸器系作用薬の薬理作用や作用機序について説明できる。	
13	消化器系作用薬	12	5	金	1.5	消化性潰瘍治療薬や鎮痙剤などの薬理作用や作用機序について理解し説明できる。	
14	血液に作用する薬剤	12	5	金	1.5	止血薬や抗血栓薬などの薬理作用や作用機序について理解し説明できる。	
15	悪性腫瘍治療薬	12	12	金	1.5	分子標的治療薬などの悪性腫瘍治療薬の薬理作用や作用機序について理解し説明できる。	
16	抗炎症薬と鎮痛薬	12	12	金	1.5	NSAIDなど抗炎症薬や鎮痛薬の薬理作用や作用機序、副作用を理解し説明できる。	
17	局所麻酔薬	1	9	金	1.5	局所麻酔薬の作用機序や血管収縮薬の併用による薬理作用について理解し説明できる。	
18	抗感染症薬と消毒薬	1	9	金	1.5	抗感染症薬や消毒薬の薬理作用、作用機序、副作用について理解し説明できる。	
19	臨床系歯科薬剤	1	16	金	1.5	歯内療法薬、歯周疾患治療薬、う蝕予防薬および歯科で用いる漢方薬について理解し説明できる。	
20	試験・解説	1	16	金	1.5	薬理学試験・解説	

担当科目	口腔衛生(I)				講師	平田 幸夫		
時間(単位)数	3単位		45時間		実施時期	1	学年	前期
一般目標(GIO)	歯や口腔の正常な発育・機能を習得する。 歯や口腔の疾病や異常の発現の予防法を習得する。 歯や口腔の健康が全身の健康にとって重要であることを習得する。							
授業概要	口腔衛生学は歯科医学の中において、予防や健康増進についての中心的な役割を担っている。そのため、歯科の二大疾患である齲蝕と歯周疾患の発生予防をはじめ、口臭、不正咬合などの発生予防とともに口腔の健康と口腔環境について学ぶ。							
学習方法	講義・演習 事前・事後小テスト		成績評価の方法		筆記・多肢選択試験 90%			受講態度 10%
教科書	歯科衛生士テキスト 口腔衛生学 第4版						学建書院	
参考図書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」						医歯薬出版	
	最新歯科衛生士教本「歯周病学」「保健生態学」						医歯薬出版	
実務経験	神奈川県歯科大学並びに他の複数大学での口腔衛生学及び社会歯科学の教鞭経験あり							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	口腔の健康・発病の概念	5	20	火	3	口腔衛生の意義、口腔の健康(口腔保健と健康、歯科疾患予防、歯・口腔の機能)について説明できる		
2	歯と口腔の発育と環境	5	27	火	3	歯・口腔の発育と変化(形成と萌出、交換期、喪失、形成期の栄養、異常形成)、口腔環境を説明できる		
3	歯・口腔の不潔	6	3	火	3	歯・口腔の不潔(歯の付着物、沈着物)について説明できる。		
4	口腔清掃	6	10	火	3	プラークコントロール、清掃の種類、清掃用具、歯磨剤(剤型、基本成分、薬効成分)について説明できる。		
5	口腔清掃	6	17	火	3	洗口剤(基本・薬効成分)、ブラッシング(方法、P染色剤、粘膜清掃)、う蝕予防の基本について説明できる		
6	う蝕予防	6	24	火	3	発生要因と機序、初期う蝕と再石灰化、う蝕活動試験、予防法(第一次～第三次)について説明できる		
7	前半授業内容演習	7	1	火	3	前半授業内容のまとめ演習とその解説		
8	フッ化物応用①	7	8	火	3	フッ化物の分布、フッ化物の代謝、フッ化物の毒性について説明できる。		
9	フッ化物応用②	7	15	火	3	フッ化物のう蝕予防機序・全身応用法・局所応用法・予防効果について説明できる。		
10	歯周病の予防①	7	22	火	3	歯周病の基礎と有病状況、分類、歯周炎、膿瘍、発生メカニズム、発生要因について説明できる。		
11	歯周病の予防②	7	29	火	3	歯周病の進行と症状・全身の関連、予防方法(第一次、第二次、第三次)について説明できる。		
12	その他の歯科疾患の予防	9	2	火	3	不正咬合(種類、影響、原因と予防)、口臭(分類、原因物質、検査と予防)について説明できる。		
13	他の疾患・異常の予防	9	9	火	3	歯の損耗、顎関節症、口腔がん等と予防及び歯科疾患と全身との関連を説明できる。		
14	後半授業内容演習	9	16	火	3	後半授業内容のまとめ演習とその解説		
15	期末試験・解説	9	24	水	3	前期末試験並びにその解説		
16								
17								
18								
19								
20								

専門分野

担当科目	衛生学・公衆衛生学				講師	川口 陽子	
時間(単位)数	2単位	30時間		実施時期	1学年	後期	
一般目標(GIO)	衛生学・公衆衛生学に関する知識・技術を習得する。						
授業概要	医療従事者として必要となる衛生学・公衆衛生学の基本的知識を学ぶ。また、将来、社会で応用できるように衛生学・公衆衛生学に関する基本的技術も学習する。授業では、講義だけでなく、課題演習やグループディスカッション等を行う。						
学習方法	講義 課題演習(自習、発表、レポート) グループディスカッション(発表)			成績評価の方法	筆記試験: 90% 課題演習: 5% 出席・態度: 5%		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康意図予防に関わる人間と社会の仕組み1 「保健生態学」第1版 医歯薬出版						
参考図書							
実務経験	大学、歯科衛生士専門学校での教育経験						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	公衆衛生学総論	10	9	木	1.5	健康の概念、予防の考え方、ヘルスプロモーション等について理解し、説明できる。	
2	人口統計	10	9	木	1.5	人口統計について理解し、説明できる。	
3	健康と環境①	10	16	木	1.5	健康と環境(地球環境、大気汚染、水質汚濁)について理解し、説明できる。	
4	健康と環境②	10	16	木	1.5	健康と環境(温熱環境、居住環境、放射線、廃棄物処理)について理解し、説明できる。	
5	感染症	11	13	木	1.5	感染症について理解し、説明できる。	
6	食品保健	11	13	木	1.5	食品保健(食中毒)について理解し、説明できる	
7	生活習慣病	11	20	木	1.5	生活習慣病について理解し、説明できる。	
8	地域保健	11	20	木	1.5	地域保健について理解し、説明できる。	
9	母子保健	11	27	木	1.5	母子保健について理解し、説明できる。	
10	学校保健	11	27	木	1.5	学校保健について理解し、説明できる。	
11	成人保健	12	4	木	1.5	成人保健について理解し、説明できる。	
12	産業保健(職域保健)	12	4	木	1.5	産業保健(職域保健)について理解し、説明できる。	
13	高齢者保健	12	11	木	1.5	高齢者保健について理解し、説明できる。	
14	精神保健、障害者福祉	12	11	木	1.5	精神保健、障害者福祉について理解し、説明できる。	
15	災害時の保健医療	12	18	木	1.5	災害時の保健医療について理解し、説明できる。	
16	国際保健	12	18	木	1.5	国際保健について理解し、説明できる。	
17	復習・まとめ	1	8	木	3	衛生学・公衆衛生学の学習内容を復習し、理解を深める。	
18	試験・解説	1	15	木	3		
19							
20							

担当科目	栄養学				講師	里見 節子		
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	1	学年	後期		
一般目標(GIO)	栄養素の働きを理解し、欠乏症や過剰症、摂取すべき量、また供給源となる食品についての知識を習得する。							
授業概要	栄養素(炭水化物・タンパク質・脂質・ビタミン・ミネラル)について、種類や体内での働き、過不足の影響、「日本人の食事摂取基準」によるエネルギーや栄養素の摂取すべき量、「日本食品標準成分表」から給源となる食品について学習する。							
学習方法	講義	成績評価の方法			筆記試験 [ 期末試験 80% 講義内の小試験 20%			
教科書	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医歯薬出版							
参考図書								
実務経験	なし							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	栄養素の消化と吸収	9	5	金	3	糖質、タンパク質、脂質の消化吸収過程やそれぞれに働く消化酵素が説明できる。		
2	食物のエネルギー					エネルギー産生栄養素が体内で利用されるエネルギー量を知る。 アトウォーター係数からエネルギー量が計算できる。		
3	エネルギー必要量					個人のエネルギー必要量の算出方法を理解する。		
4	食事摂取基準					「日本人の食事摂取基準」によるエネルギーや栄養素の「指標」の目的や意味、内容を説明できる。 生活習慣病予防のために目標とされているエネルギー産生栄養素の摂取割合、食塩の摂取量を知る。		
5	糖質	9	12	金	3	糖質の種類、体内における働き、給源となる食品、過不足の影響が説明できる。 う蝕の原因にならない甘味料を知る。		
6	タンパク質					タンパク質の種類、体内における働き、給源となる食品、過不足の影響が説明できる。		
7	脂質					脂質の種類、体内における働き、給源となる食品、過不足の影響が説明できる。 脂肪酸の種類や特徴、給源となる食品が説明できる。		
8	ビタミン	9	19	金	3	ビタミンの種類および体内での働き、欠乏症や過剰症、給源となる食品について説明できる。		
9	ミネラル(多量元素)					多量元素の種類および体内での働き、欠乏症や過剰症、給源となる食品について説明できる。		
10	ミネラル(微量元素)	9	26	金	3	微量元素の種類および体内での働き、欠乏症や過剰症、給源となる食品について説明できる。		
11	水					体内における水について、働きや代謝を説明できる。		
12	食物繊維					食物繊維の種類、体内での働き、必要量、給源となる食品を説明できる。		
13	食品添加物					酸化防止剤等食品添加物となる栄養素を知る。		
14	6つの基礎食品					食品を主な給源栄養素で6つに分類した「6つの基礎食品」について、それぞれの群の特徴を理解し、食品を分類することができる。		
15	3色食品群					6分類(6つの基礎食品)よりも簡単な3分類について食品と体内での主な働きを知る。それぞれの群の特徴を理解し、食品を分類することができる。		
16	試験・解説	10	3	金	3	期末試験および解説		



専門分野

担当科目	歯科衛生士概論				講師	荒川 浩久		
時間(単位)数	1単位	30	時間	実施時期	1	学年	前期	
一般目標(GIO)	保健医療人として、人々の歯科疾患の予防と健康増進を支援するために、歯科衛生学の重要性を理解し、歯科衛生業務の概要を習得する。併せて歯科衛生士として活躍するのに必要な科目の基礎を学び、それらへの円滑な導入を図ることができるようにする。							
授業概要	現在の歯科衛生士誕生までの歴史と歯科衛生士の業務を理解するとともに、歯科衛生業務の遂行に必要な歯科衛生過程、安全管理、感染予防、インフォームドコンセントを講義内容とする。さらに、歯科衛生士としてアドバンスするために、国内外での歯科衛生士の活躍について理解する。							
学習方法	講義			成績評価の方法		中間試験 45% 期末試験 45% 出席・課題 10%		
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論							
参考図書								
実務経験	歯科医院で臨床経験あり							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	歯科衛生士の歴史①	4	14	月	1.5	歯科衛生学と歯科衛生士の誕生について説明できる。教科書p1-11		
2	歯科衛生士の歴史②	4	14	月	1.5	現在の歯科衛生士誕生までの歴史を説明できる。教科書p11-19		
3	歯科衛生活動の理論	4	21	月	1.5	歯科衛生活動のための理論について説明できる。教科書p20-31		
4	歯科衛生過程	4	21	月	1.5	歯科衛生過程とSOAPについて説明できる。教科書p32-41		
5	歯科衛生士法①	4	28	月	1.5	歯科衛生士法における三大業務を説明できる。教科書p42-48		
6	歯科衛生士法②	4	28	月	1.5	歯科衛生士法による歯科衛生士の義務について説明できる。教科書p49-53		
7	安全管理	5	12	月	1.5	医療事故と歯科診療所における安全管理体制について説明できる。教科書p53-60		
8	感染予防	5	12	月	1.5	歯科診療所における医療廃棄物と感染予防対策について説明できる。教科書p60-65		
9	まとめ①	5	19	月	1.5	これまでに学んだことを振り返り、説明できる。教科書p1-65		
10	中間試験とフィードバック	5	19	月	1.5	これまでに学んだ範囲の中間試験を受験し、解答に到達する過程を説明できる。教科書p1-65		
11	医療倫理	5	26	月	1.5	医療人としての倫理、医学研究の倫理、患者の権利について説明できる。教科書p66-72		
12	インフォームドコンセント	5	26	月	1.5	インフォームドコンセントと必要なコミュニケーションスキルについて説明できる。教科書p73-76		
13	歯科衛生士の現況	6	2	月	1.5	歯科衛生士の業務従事先と人数、ならびに他の医療職種の現況を説明できる。教科書p77-81		
14	歯科衛生士の活動	6	2	月	1.5	医療保険制度や介護保険制度における歯科衛生士の活動を説明できる。教科書p81-92		
15	海外の歯科衛生士	6	9	月	1.5	海外と日本の歯科衛生士の違いと海外での活動を説明できる。教科書p93-97		
16	まとめ②	6	9	月	1.5	中間試験以降に学んだことを振り返り、説明できる。教科書p66-97		
17	試験・解説	6	16	月	1.5	これまでに学んだ範囲で期末試験を受験し、解答に到達する過程を説明できる。教科書p66-97		
18	解説	6	16	月	1.5	期末試験の解答に到達する過程を説明できる。教科書p66-97		
19								
20								

専門分野

担当科目	歯科臨床概論				講師	荒川 浩久		
時間(単位)数	1単位	30	時間	実施時期	1	学年	後期	
一般目標 (GIO)	歯科衛生士を目指す学生が、歯科保健医療を担うチームの一員になるための理解が深まるように、一般的な歯科診療の流れから、各診療分野における歯科衛生士の役割を習得し、円滑な導入を図ることができるようにする。							
授業概要	歯科衛生士の主な就業先で実践している歯科衛生業務、ならびに歯科診療所、病院、訪問診療における各診療分野での業務、高齢者施設、居宅、地域保健における歯科保健指導を講義内容とする。さらに、臨床実習ならびに就業時の業務に円滑に移行できる素養を身につける。							
学習方法	講義				成績評価の方法	中間試験 45% 期末試験 45% 出席・課題 10%		
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論							
参考図書								
実務経験	歯科医院で臨床経験あり							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標 (SBOs)		
1	歯科診療の概要	10	1	水	1.5	一般的な歯科診療所の構成と歯科診療の概要を説明できる。教科書p2-10		
2	歯科診療所の安全管理	10	1	水	1.5	歯科診療所の安全管理、感染予防対策、医療廃棄物について説明できる。教科書p11-13		
3	歯科診療所業務①	10	8	水	1.5	歯科診療所における業務と歯科診療の流れについて説明できる。教科書p14-23		
4	歯科診療所業務②	10	8	水	1.5	歯科診療における診査、検査、前処置について説明できる。教科書p26-35		
5	小児歯科	10	15	水	1.5	小児患者の問題点と歯科衛生士としてのTSDを説明できる。教科書p36-39		
6	う蝕予防処置	10	15	水	1.5	う蝕予防処置業務としてのシーラントとフッ化物歯面塗布法を説明できる。教科書p40-43		
7	歯科矯正	10	22	水	1.5	不正咬合、歯科矯正装置と歯科衛生士の役割を説明できる。教科書p44-47		
8	まとめ①	10	22	水	1.5	これまでに学んだことを振り返り、説明できる。教科書p2-47		
9	中間試験とフィードバック	10	29	水	1.5	これまでに学んだ範囲の中間試験を受験し、解答に到達する過程を説明できる。教科書p2-47		
10	口腔外科	10	29	水	1.5	口腔外科における診療内容、抜歯に必要なもの、粘膜疾患について説明できる。教科書p48-57		
11	歯科保存①	11	5	水	1.5	歯科保存修復処置と歯内療法の内容を説明できる。教科書p58-67		
12	歯科保存②	11	5	水	1.5	歯周病の原因と治療ならびに歯科衛生士としての業務内容を説明できる。教科書p68-75		
13	歯科補綴	11	12	水	1.5	歯科補綴物の種類と構成要素を説明できる。教科書p76-85		
14	障害者・高齢者歯科	11	12	水	1.5	障害者・高齢者における問題点と摂食嚥下障害への対応を説明できる。教科書p86-91		
15	全身疾患・高齢者への対応	11	19	水	1.5	全身疾患をもつ歯科患者と訪問歯科診療、周術期の口腔ケアを説明できる。教科書p92-99		
16	まとめ②	11	19	水	1.5	中間試験以降に学んだことを振り返り、説明できる。教科書48-99		
17	試験・解説	11	26	水	1.5	これまでに学んだ範囲で期末試験を受験し、解答に到達する過程を説明できる。教科書p48-99		
18	解説	11	26	水	1.5	期末試験の解答に到達する過程を説明できる。教科書p48-99		
19								
20								

担当科目		栄養指導			講師	里見 節子		
時間(単位)数				1単位	15時間	実施時期	1 学年	後期
一般目標(GIO)				健康の維持・増進のための食生活を考えられる力を習得する。 ライフステージの特徴を踏まえた食生活の問題点や改善策を考えられる力を習得する。 市販食品の健康に関する表示を理解し食品の適切な選択ができる力を習得する。				
授業概要				「国民健康・栄養調査」の結果による栄養摂取の現状や健康日本21(第三次)等の健康施策を知り、健康課題を理解する。「日本人の食事摂取基準」、「授乳・離乳の支援ガイド」、「食事バランスガイド」等よりライフステージ別で食生活の特徴を把握する。また、自身の食習慣や食事内容の振り返りや評価を行う。				
学習方法				講義 食品群別摂取状況のチェック(毎週) 食事の記録(1日)と振り返り	成績評価の方法		筆記試験 〔 期末試験 70% 講義内の小試験 24% 記録・評価の提出 6%	
教科書				最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医歯薬出版				
参考図書								
実務経験				保健センターで乳幼児健康診断時の食事相談、企業等での特定保健指導に従事。				
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	日本人の栄養摂取状況	10	10	金	3	「国民健康・栄養調査」の結果から栄養素や食品の摂取状況、年次推移より傾向を知り、日本人の食生活の現状や課題が説明できる。		
2	健康日本21(第三次)					健康施策の変遷、現在の「健康日本21(第三次)」について概要や食生活に関わる内容について目標や現状、課題を知る。		
3	食品の表示	10	17	金	3	「特別用途食品」や「保健機能食品」の表示について、種類や意味を理解し説明できる。		
4	食育基本法					食育基本法を知り、基本理念を理解する。食育推進基本計画の内容や現状を知る。		
5	食事バランスガイド					食事バランスガイドの各区分への料理の分類および基本形の各区分の量が説明できる。		
6	成長期における栄養	10	23	木	3	離乳食について、開始時期や各時期の口腔機能に合わせた食形態が説明できる。幼児期、学童期の食生活における注意点、問題点を説明できる。		
7	成人期における栄養					メタボリックシンドロームについて診断基準や予防のための食生活が説明できる。妊婦・授乳婦の栄養について、「妊産婦のための食事バランスガイド」や食事摂取基準における付加等が説明できる。		
8	食事の記録					前日の食事時間、内容を書き出し、振り返ることで、各自問題点や改善点をみつける。		
9	高齢期における栄養	10	30	木	3	高齢期の特徴や食生活の配慮すべき点を説明できる。低栄養を回避するための栄養状態の指標、またフレイルについて説明できる。摂食えん下機能が低下した際に対応する食形態を理解する。		
10	経口以外の栄養補給法					経腸栄養、経静脈栄養の種類と主な特徴が説明できる。		
11	食品の機能性					食品の3つの機能性が説明できる。		
12	おいしさを構成する要因					5つの基本味とそれぞれの味物質が説明できる。味の相互作用を具体例とともに説明できる。		
13	食生活指針					健康づくりの具体的目標とされている食生活指針の内容を理解する。		
14	食事記録の評価					他人の食事について評価や改善案が提示できる。		
15	試験・解説					11	6	木

専門分野

担当科目		歯科予防処置論 I		講師	佐々木真理子 氏原 真由	
時間(単位)数		2単位	60時間	実施時期	1 学年	前期 後期
一般目標(GIO)		口腔疾患を予防し人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識・技術および態度を習得する。				
授業概要		歯科予防処置についての専門的な知識、技術および態度を習得する。 歯周病の基礎知識を理解し基本的な技術を習得する。 う蝕の基礎知識を理解し予防法とその技術を習得する。				
学習方法		講義・実習		成績評価の方法	筆記試験	60% (中間・期末)
					実技試験	30%
					出席・レポート	10%
教科書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」			医歯薬出版	
		最新歯科衛生士教本「歯周病学」「保健生態学」			医歯薬出版	
実務経験		病院・歯科医院での臨床経験あり。				
授業計画						
No	時間数	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	1.5	オリエンテーション①	歯科予防処置とは。講義・実習・試験について			
2	1.5	オリエンテーション②	使用器具についての説明・基本知識について			
3	1.5	歯科予防処置の概要	歯科予防処置における歯科衛生士の役割について理解し定義について説明できる。			
4	1.5	口腔の基礎知識①	口腔・口腔周囲の構造と機能を説明できる			
5	1.5	口腔の基礎知識②	歯周組織の構造と機能を説明できる			
6	1.5	歯冠と歯根の形態	歯冠と歯根の形態について理解できる			
7	1.5	口腔内の付着物・沈着物	口腔内の付着物・沈着物について説明ができる。			
8	1.5	う蝕の基礎知識①	う蝕の基礎知識を理解し説明ができる。			
9	1.5	歯周病の基礎知識①	歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる。			
10	1.5	う蝕の基礎知識②	う蝕の原因・と進行予防方法を説明できる。			
11	1.5	歯周病の基礎知識②	歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる。			
12	1.5	う蝕活動性試験①	う蝕活動性試験の方法を理解し体験する。			
13	1.5	探針について	エクスプローラーの基本操作が理解できる			
14	3	探針の取り扱い①	エクスプローラーの基本操作が理解できる			
15	3	探針の取り扱い②	エクスプローラーの基本操作が理解できる			
16	3	実技試験①	探針の基本操作ができる。			
17	1.5	スケーラーについて	スケーラーの種類・特徴について理解し説明ができる			
18	1.5	器材・器具の取り扱い	プロービング・動揺度・コンタクトポイントテストの診査について理解できる。			
19	1.5	口腔内診査について	歯周病検査の方法を理解し説明ができる。(プロービング・動揺度)			
20	3	歯面研磨・PMTC	歯面研磨・PMTCの目的・種類・使用器材・使用方法について理解ができる。			
21	3	マネキン訓練実習①	マネキンの使用方法を理解できる。			
22	3	マネキン訓練実習②	前歯部のスケーリングを理解し操作ができる			
23	3	マネキン訓練実習③	下顎臼歯部のスケーリングを理解し操作ができる			

No	時間数	授業項目	到達目標(SBOs)
24	3	マネキン訓練実習④	上顎臼歯部のスケーリングを理解し操作ができる
25	3	マネキン訓練実習⑤	前歯部・臼歯部のスケーリングを理解し操作ができる。
26	3	中間試験(筆記)	中間試験・試験解説
26	3	実技試験②	スケーリングの基本操作ができる。(前歯部・臼歯部)
27	3	期末試験(筆記)	期末試験・試験解説
	60		

専門分野

担当科目	歯科保健指導論 I		講師	野原 早苗 高橋 温子	
時間(単位)数	3単位	75時間	実施時期	1学年	前期 後期
一般目標 (GIO)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授業概要	歯科保健指導や口腔清掃指導に必要な知識や技術を講義、実習を通して学ぶ。各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健指導行動を学ぶ。臨地実習の準備のため、実習に必要な媒体作製を行う。				
学習方法	講義 実習 その他	成績評価の方法		筆記試験 実技試験 出席率・レポート他	
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 医歯薬出版				
参考図書	歯科衛生学シリーズ「保健生態学」「歯科材料」 医歯薬出版				
実務経験	歯科医院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標 (SBOs)			
1	予防と健康施策	予防の概念とわが国の健康推進施策を理解できる			
2	歯科保健指導論とは	歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけを説明できる			
3		歯科保健指導の業務(歯科衛生実践)を概説できる			
4		医療保険制度における歯科保健指導を理解できる			
5		他職種が行う保健指導を理解できる			
6	歯科衛生介入としての保健指導	口腔衛生管理に関する清掃用具(歯ブラシ、その他)を説明・操作できる			
7		歯ブラシのブラッシングの方法を説明・操作できる			
8		歯磨剤、洗口液・洗口剤、義歯洗浄剤、義歯安定剤、保湿剤の特徴を説明できる			
9		ブラッシング方法とその他の清掃方法の実技試験			
10	口腔清掃自習	歯垢染色法を理解し、活用できる			
		自分の口腔内の状況を把握できる			
11		自分の口腔内で口腔衛生管理に関する清掃用具を正しく操作できる			
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入	妊産婦期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる			
13		乳児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる			
14		幼児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる			
15		学齢期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる			
16		思春期・青年期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる			
17		成人期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる			
18		高齢期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる			
19	配慮を要する者への歯科衛生介入	要介護高齢者・障害児者・大規模災害被災者の特徴、歯科衛生介入について説明できる			
20	教育媒体の作製	幼保実習の媒体作製・発表ができる			

No	時間数	授業項目	到達目標 (SBOs)
24	3	マネキン訓練実習④	上顎臼歯部のスケーリングを理解し操作ができる
25	3	マネキン訓練実習⑤	前歯部・臼歯部のスケーリングを理解し操作ができる。
26	3	中間試験(筆記)	中間試験・試験解説
26	3	実技試験②	スケーリングの基本操作ができる。(前歯部・臼歯部)
27	3	期末試験(筆記)	期末試験・試験解説
	60		

専門分野

担当科目	歯科診療補助論 I		講師	須藤遥香 高橋温子 大森理乃		
時間(単位)数	3単位	90時間	実施時期	1学年	前期	後期
一般目標(GIO)	歯科診療補助の概要を理解し、安全で円滑な歯科診療が行えるよう、専門的な知識・技術及び態度を習得する。診療に必要な器具、器材それにとりもなる材料の基本的知識と取り扱いを理解し、共同動作を身につける。					
授業概要	医療安全及び感染予防の知識を身に付け、実施出来る。 診療に必要な器具や器材の知識と取り扱いを理解し習得する。 円滑に歯科診療補助が行えるよう共同動作を習得する。					
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	筆記試験	70%	
				実技試験	20%	
				出席・レポート	10%	
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2判」			医歯薬出版		
	最新歯科衛生士教本「歯科材料」「歯科器材」			医歯薬出版		
実務経験	歯科医院での臨床経験あり					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	歯科診療補助の概念 歯科診療室の基礎知識	歯科診療補助の業務内容を理解し、歯科診療室や設備における基礎を習得する。				
2	医療安全	医療安全の概念とその対策を説明できる。				
3	感染予防①、②	感染症の概念、標準予防策を理解し手指消毒・グローブ・マスク・ゴーグルの装着ができ、滅菌、消毒、洗浄の方法について説明ができる。				
4	医療廃棄物の取り扱い	医療廃棄物の分類と分別を説明できる。				
5	一般検査用機器	歯科用器具の把持法・取り扱いを習得する。				
6	衛生材料	歯科で使用する衛生材料を製作する。(ロールワッテ、小折りガーゼ、綿栓、綿球)				
7	印象材、歯科用石膏について	印象材、歯科用石膏の特徴、種類、用途及び練和法と管理法を理解する。				
8	アルジネート印象材取り扱い①	アルジネート印象材練和法、管理法を習得する				
9	アルジネート印象材取り扱い②	片顎トレーにてアルジネート印象採得を習得する。				
10	アルジネート印象材取り扱い③	全顎トレーにてアルジネート印象採得を取得する。				
11	アルジネート印象材取り扱い④	片顎トレー、全顎トレーにてアルジネート印象採得を習得する。				
12	実技試験	模型にて片顎トレー、全顎アルジネート印象採得ができる。				
13	模型の作製	アルジネート印象採得後、歯科用石膏で模型作成を習得する。				
14	合着材・接着材	合着材、接着材の種類、用途、特徴を理解し取り扱い、練和法を習得する。				
15	ラバーダム防湿①	ラバーダム防湿の目的と器具の用途について理解する。				
16	ラバーダム防湿②	マネキンにてラバーダム防湿を行うことができる。				
17	ラバーダム防湿③	マネキンにてラバーダム防湿を行うことができる。				
18	ラバーダム防湿④	マネキンにてラバーダム防湿の手順を習得する。				
19	実技試験	ラバーダム防湿が正しくできる。				



専門分野

担当科目	コンピューター				講師	板倉紀代子	
時間(単位)数	1単位	27 時間		実施時期	1 学年	前期	
一般目標(GIO)	パソコン操作の基礎を学習し、社会に出て業務が円滑に行えるように実習能力を養う。						
授業概要	テキストを使い、ワード・エクセル・パワーポイントの基礎を実習する。 初回に習得レベルのアンケートを取り、なるべくレベルにあった実習問題に取り組めるようにする。						
学習方法	講義・実習			成績評価の方法	授業内(課題提出) 40% 出欠・授業態度 10% 期末試験(実技) 50%		
教科書	30時間アカデミック Office2021 (Windows11対応) 実教出版 他に、参考資料や実習問題はコピーで対応する						
参考図書							
実務経験	看護専門学校、福祉専門学校、民間パソコンスクールで講義経験あり						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	ワード 入力・文書作成	11	12	水	3	長文の一括入力(効率の良い入力)の学習と、ビジネス文書のルールの理解と必要な機能の習得	
2	ワード 表の作成	11	19	水	3	簡単な表から応用の表まで、表作成に必要な機能(罫線機能)を習得する	
3	ワード 図形の作成	11	26	水	3	図の作成(地図の作成を含む)、イラスト・写真の挿入と編集に関する機能を習得する(4回目前半まで)	
4	ワード チラシ・長文作成	12	3	水	3	長文作成に必要な機能(ヘッダ・フッタ、目次、ページ番号付など)習得と、段組の文書を作成する	
5	ワード 総括	12	10	水	3	テキストにあるワードの機能の総括と、診療券を作成する(名刺作成機能の習得)	
6	エクセル データベース	12	17	水	3	データベース機能(並び替えと抽出の仕方)を習得する。残りの時間で計算機能を学習する。	
7	エクセル 関数とグラフ化	1	7	水	3	前回の後半から、関数とグラフ機能を習得する	
8	パワーポイント	1	14	水	3	パワーポイントを使い、基本的なプレゼンテーションに使う機能を習得する	
9	試験・解説	1	21	水	3		
10							
11						※ 1~8は、それぞれ2コマ続きの実習内容です。	
12						※ 3回目の実習内容は4回目の前半まで。4回目の内容は同回の後半に学習する。	
13						※ ワード・エクセル・パワーポイントで使う共通した機能はワードで学習します。	
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

担当科目	医療事務 I				講師	原 寿美子		
時間(単位)数	3単位	45	時間	実施時期	1	学年	後期	
一般目標(GIO)	医科診療報酬外来の各項目の基本的な算定方法を習得し、正しい算定による外来会計ができるようにする。							
授業概要	保険診療と診療報酬算定の基礎を学ぶ。 カルテ問題集等で具体的な算定のしかたを学ぶ内容とする。							
学習方法	講義・演習				成績評価の方法	学科試験 45% 実技試験 45% 出席 10%		
教科書	医療事務講座テキスト、カルテ問題集、カルテ問題集解答(日本医療事務協会)							
参考図書	なし							
実務経験	なし							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	医療保険の概要	10	3	金	3	医療保障制度を理解し、保険給付、一部負担金について説明できる。		
2	基本診療料①	10	10	金	3	外来診療で算定する初診料・再診料を理解し、説明ができる。		
3	基本診療料②	10	17	金	3	初診料・再診料の正しい算定ができる。		
4	医学管理等・在宅医療	10	24	金	3	「医学管理」から頻度の高い項目について理解し、算定ができる。 「在宅医療」の概略について理解できる。		
5	投薬①	10	31	金	3	薬剤料算定の基礎知識を理解し内服薬の算定と調剤料・処方料等が算定できる。		
6	投薬②	11	7	金	3	頓服薬・外用薬について理解し算定ができる。院外処方箋料の算定について理解できる。		
7	会計欄作成①	11	14	金	3	基本診療料～投薬まで算定練習をし理解を深める。		
8	会計欄作成②	11	21	金	3	テストを行い、基本診療料～投薬までの学習内容の習得度を確認しさらに理解を深める。		
9	注射①	11	28	金	3	注射料(IM,IV)について理解し算定ができる。		
10	注射②	12	5	金	3	注射料(特殊注射)について理解し算定ができる。		
11	会計欄作成③	12	12	金	3	基本診療料～注射までの算定練習をし理解を深める。		
12	処置①	12	19	金	3	処置料と基本診療料との関係と処置料算定上の留意事項について理解できる。		
13	処置②・リハビリ	1	9	金	3	処置料・リハビリテーション料について正しい算定ができる。		
14	会計欄作成④/ 期末試験対策	1	16	金	3	基本診療料～処置・リハビリまでの算定練習をし理解を深める。 カルテ問題集・テキスト等を使用して学習してきた内容の再確認をして理解を深める。		
15	期末試験/解説	1	23	金	3	期末試験実施/期末試験についてのポイントや間違いやすい点を整理する。		
16								
17								
18								
19								
20								

姓名	性別	生年	籍貫	學歷	備考	備註
45期						
2学年						
張貴 (口)	男	1911	湖南	湖南	1	
	男	1912	湖南	湖南	2	
	男	1913	湖南	湖南	3	
	男	1914	湖南	湖南	4	
	男	1915	湖南	湖南	5	
	男	1916	湖南	湖南	6	
	男	1917	湖南	湖南	7	
	男	1918	湖南	湖南	8	
	男	1919	湖南	湖南	9	
	男	1920	湖南	湖南	10	
	男	1921	湖南	湖南	11	
	男	1922	湖南	湖南	12	
	男	1923	湖南	湖南	13	
	男	1924	湖南	湖南	14	
	男	1925	湖南	湖南	15	
	男	1926	湖南	湖南	16	
	男	1927	湖南	湖南	17	
	男	1928	湖南	湖南	18	
	男	1929	湖南	湖南	19	
	男	1930	湖南	湖南	20	

湘南齒科衛生士專門學校

2025年度

2年生 45期生 41単位(1110h)

<専門基礎分野> 5 単位( 75 h)

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者	
口腔衛生学(2)	2	30	講義	前期	川口 陽子	
衛生統計	1	15	講義	後期	川口 陽子	
衛生行政・社会福祉学	2	30	講義	後期	阿部 智	

<専門分野> 29単位( 930h )

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者		
医療倫理学	1	15	講義	前期	関根 透		
保存修復学	1	30	講義	前期	細矢 哲康		
歯周療法学	1	30	講義	前期	田村 利之		
歯内療法学	1	30	講義	前期	田中 利典		
歯科補綴学	1	30	講義	前期	澤田 智慈		
口腔外科学(麻酔学)	1	30	講義	後期	濱田 芳樹	熊谷 賢一	江口 貴紀
小児歯科学	1	30	講義	前期	今井 裕樹		
歯科矯正学	1	30	講義	前期	野嶋 邦彦		
歯科放射線学	1	30	講義	前期	五十嵐 千浪		
高齢者歯科学	1	30	講義	前期	深山 治久		
障害者歯科学	1	30	講義	後期	宮城 敦		
摂食・嚥下機能学	1	15	講義	後期	石川 好美		
臨床検査法	1	24	講義	後期	井上 孝	國分 克寿	
社会保険	1	15	講義	後期	上條 英之		
歯科予防処置論Ⅱ*	3	90	講義・実習	前・後期	佐々木真理子	氏原真由	
歯科保健指導論Ⅱ*	2	60	講義・実習	前・後期	野原 早苗	高橋温子	
歯科診療補助論Ⅱ*	2	51	講義	前・後期	須藤遥香	高橋温子	大森理乃
臨地・臨床実習Ⅰ	8	360	実習	前・後期	各実習所指導者		

※実習科目\*は所定時間数の4分の3以上出席しなければならない。

※「臨地・臨床実習Ⅰ」は、歯科予防処置論Ⅰ・歯科保健指導論Ⅰ・歯科診療補助論Ⅰを履修した者でなければ履修できない。

※臨地・臨床実習は所定日数すべて出席しなければならない。

(健康上等の理由により欠席した場合は、追加実習を行う場合もある。)

※3年次「臨地・臨床実習Ⅱ」は、歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ、歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ、歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱを履修した者でなければ履修できない。

<選択必修分野> 7単位(105h)

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者	
看護概論	2	30	講義	前期	志村 央子	
*医療事務Ⅱ	3	45	講義	前期	原 寿美子	
*海外事情	2	30	講義・見学実習			

\*は選択科目である。

専門分野

担当科目	口腔衛生学(2)				講師	川口 陽子	
時間(単位)数	2単位		30時間		実施時期	2 学年	前期
一般目標(GIO)	口腔衛生学、特に地域歯科保健活動に関する知識・技術を習得する。						
授業概要	医療従事者として必要となる口腔衛生学(地域歯科保健活動)の基本的知識を学ぶ。また、将来、社会で応用できるように地域歯科保健活動に関する基本的技術も学習する。授業では、講義だけでなく、課題演習やグループディスカッション等を行う。						
学習方法	講義 課題演習(自習、発表、レポート) グループディスカッション(発表)			成績評価の方法		筆記試験: 90% 課題演習: 5% 出席・態度: 5%	
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康意図予防に関わる人間と社会の仕組み1 「保健生態学」第1版 医歯薬出版						
参考図書							
実務経験	大学、歯科衛生士専門学校での教育経験						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	地域歯科保健	4	11	金	3	地域歯科保健活動について理解し、説明できる。	
2	母子歯科保健	4	18	金	3	母子歯科保健活動について理解し、説明できる。	
3	学校歯科保健	4	25	金	3	学校歯科保健活動について理解し、説明できる。	
4	成人・産業歯科保健	5	15	木	3	成人・産業歯科保健活動について理解し、説明できる。	
5	高齢者の歯科保健	6	18	水	3	高齢者対象の歯科保健活動について理解し、説明できる。	
6	障害者・災害時の歯科保健	7	2	水	3	障害者対象および災害発生時の歯科保健医療活動について理解し、説明できる。	
7	国際歯科保健	7	9	水	3	国際歯科保健活動について理解し、説明できる。	
8	復習・まとめ	7	16	水	3	口腔衛生学Ⅱ(地域歯科保健活動)の学習内容を復習し、理解を深める。	
9	試験・解説	7	23	水	3		
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

専門分野

担当科目	衛生統計学				講師	川口 陽子	
時間(単位)数	1単位		15時間		実施時期	2学年	後期
一般目標(GIO)	衛生統計学に関する知識・技術を習得する						
授業概要	医療従事者として必要となる衛生統計学の基本的知識を学ぶ。また、将来、社会で統計学を応用できるように基本的技術も学習する。授業では、講義だけでなく、課題演習やグループディスカッション等を行う。						
学習方法	講義 課題演習(自習、発表) グループディスカッション(発表)			成績評価の方法		筆記試験:100%	
教科書	歯科衛生士テキスト「口腔衛生学」第4版 学建書院						
参考図書	歯科衛生学シリーズ「保健生態学」第1版 医歯薬出版						
実務経験	大学、歯科衛生士専門学校での教育経験						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	歯科疾患の指標と疫学①	10	9	木	3	歯科疾患の指標と疫学(現在歯数、う蝕)について理解し、説明できる。	
2	歯科疾患の指標と疫学②	10	16	木	3	歯科疾患の指標と疫学(歯周病、不正咬合等)について理解し、説明できる。	
3	衛生統計・歯科保健統計	11	13	木	3	衛生統計・歯科保健統計について理解し、説明できる。	
4	疫学研究	11	20	木	3	疫学研究について理解し、説明できる。	
5	試験・解説	11	27	木	3		
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

担当科目		衛生行政・社会福祉学			講師	阿部 智	
時間(単位)数		2単位	30時間		実施時期	2学年	後期
一般目標(GIO)		本講義は公衆衛生、社会医学の考え方を基本として、主に医療倫理、保健医療行政、医事法制、社会保障等を学び、保健医療を社会的な手法でマクロ的に捉えてく思考を学ぶものである。					
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>指定する教科書を以て基本的な事項を学び、必要に応じて問題演習を行う。</li> <li>国際保健など教科書に記載のない項目については別途資料を配布し講義の参考とする。</li> <li>講義内容によってはニュースなどの時事問題を取り上げ、講義内容との関連性について説明する。</li> </ul>					
学習方法		講義	成績評価の方法		筆記試験:90% 出席:10%		
教科書		歯科保健医療に関連する社会保障制度と関係法規				アナトーム社	
参考図書							
実務経験		病院・歯科医院での臨床経験あり。					
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	医療倫理	9	5	金	1.5	ピーチャム・チルドレスによる医療倫理4原則、パターンリズムなどの医療倫理の基本事項を説明できる。	
2	国際規範	9	5	金	1.5	ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等、保健医療分野で重要な国際宣言等について説明できる。	
3	歯科衛生士法、歯科医師法、歯科技工士法	10	10	金	1.5	歯科衛生士法の基本事項および、歯科医療供給体制の変化に伴い役割が増えてきた経緯について説明できる。歯科衛生士法も含めた歯科関連3法について、それぞれの役割について説明できる。	
4	医療法、地域保健法、学校保健安全法、母子保健法	10	10	金	1.5	医療法、地域保健法の基本事項を学び、それぞれに規定される医療施設の違いを説明できる。学校保健、母子保健における各種関連法律と歯科保健の位置付けについて説明できる。	
5	行政機構	10	17	金	1.5	我が国の行政機構、主に保健衛生行政について説明できる。	
6	健康格差(フッ化物応用の関係)	10	17	金	1.5	健康格差について説明できる。また、健康格差是正にフッ化物応用が果たす役割についても学ぶ。	
7	保健医療の動向	10	31	金	1.5	医療人材、医療統計など我が国の保健医療の動向について説明できる。	
8	中間知識定着確認	10	31	金	1.5	7回分の講義の内容を総復習することで理解度の確認をすることができる。	
9	社会保障概論	11	7	金	1.5	我が国の社会保障について説明できる。	
10	医療保険	11	7	金	1.5	社会保障のうち、日本の公的医療保険制度について説明できる。	
11	社会福祉	11	14	金	1.5	社会保障のうち、社会福祉について説明できる。	
12	医療安全	11	14	金	1.5	医療安全について説明できる。	
13	国際保健	11	21	金	1.5	ユニバーサルヘルスカバレッジなどグローバルヘルスの昨今の潮流について説明できる。SDGsについてMDGsからの歴史的背景、概要、「目標3 すべての人に健康と福祉を」について説明できる。	
14	国際歯科保健	11	21	金	1.5	WHOについて説明できる。FDIなどの歯科口腔保健関係の国際機関について説明できる。WHO、FDIが提唱する口腔保健戦略について説明できる。	
15	医療経済	11	28	金	1.5	国民医療費(概要、制度区分別、財源別、診療種類別、年齢階級別、疾病分類別)を説明できる。	
16	医学史	11	28	金	1.5	医学史を学ぶことによって、医学知識や医療技術がどのように発展していったかを説明できる。	
17	問題演習	12	19	金	1.5	学習範囲の問題を複数問解答することで、知識の確認と定着を確かめることができる。	
18	総復習	12	19	金	1.5	学んだことを復習し、知識体系を再確認することができる。(試験対策)	
19	試験	1	9	金	1.5	学んだ知識の定着を確認することができる。	
20	試験フィードバック	1	9	金	1.5	試験結果を基に定着が十分でない知識を確実にすることができる。	

担当科目	医療倫理学				講師	関根透	
時間(単位)数	1 単位	15時間		実施時期	2学年	前期	
一般目標 (GIO)	「医療倫理学」の内容である患者の基本的人権の尊重、国際的倫理規範、インフォームド・コンセント、生命倫理の意義、プロフェッショナルの倫理、臨床研究の倫理規範などを習得する。						
授業概要	現在の日本人は変動する国際的社会の中での医療人として生き方を具体的に示す。 歯科衛生士は専門家として患者との信頼関係を構築するために、医療倫理が強く求められる。 本授業では、「医療倫理」に関係するキーワードを中心に説明する。						
学習方法	配布プリントとスライドによる講義			成績評価の方法	筆記試験	90%	
					出席等	10%	
教科書	担当教員作成の配布プリント						
参考図書	日本歯科医師会『信頼される歯科医師 II』 歯科衛生士教本『歯科医療倫理』医歯薬出版						
実務経験	鶴見大歯学部、神奈川歯大、東京女子医大、横浜市大医学部等での講義経験あり。						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標 (SBOs)	
1	オリエンと医療倫理の意味	5	2	金	1.5	オリエンテーション、医療倫理学の意味と意義について説明できる。	
2	患者の基本的人権	5	9	金	1.5	憲法、個人情報保護法などの倫理規範に示された基本的人権を説明できる。	
3	国際的倫理規範 1	5	16	金	1.5	パターンリズムの倫理、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言を説明できる。	
4	医療職者の倫理	5	23	金	1.5	医療職者(プロフェッショナル)の倫理、資質、自覚、不正行為などを説明できる。	
5	国際的倫理規範 2	6	6	金	1.5	ニュルンベルグ倫理綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言の内容を説明できる。	
6	生命倫理とたばこの問題	6	13	金	1.5	生命倫理の内容、日本の倫理規範、タバコ・喫煙の問題を説明できる。	
7	インフォームドコンセント	6	20	金	1.5	インフォームドコンセントの意味、目的、成立、セカンドオピニオンを説明できる。	
8	倫理的医療対話	6	27	金	1.5	コミュニケーションの意義と目的、QOL、IADL、現在の社会的問題などを説明できる。	
9	臨床研究の実施基準	7	4	金	1.5	治験審査の臨床試験の4段階と倫理審査の倫理指針を区別を区別・説明できる。	
10	「医療倫理学」の期末試験	7	11	金	1.5	「医療倫理学」の期末試験。主に4択の筆記による試験問題と試験後に解説する。	
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							



担当科目	保存修復学				講師	細矢哲康	
時間(単位)数	1単位		30時間		実施時期	2学年	前期
一般目標(GIO)	保存修復領域の知識を身につけるために、硬組織疾患の概要を理解し、治療の進め方の基本を習得する。						
授業概要	歯の硬組織疾患、歯の変色、象牙質知覚過敏症の病因と病態を理解する。 齶蝕の症状、検査法、診断及び処置法を理解する。 修復材料とその取扱い、修復法の適応を理解する。 窩洞形成の意義と方法を理解する。						
学習方法	講義			成績評価の方法		筆記試験 95% 授業中の質問に対する回答 5%	
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学(医歯薬出版)						
参考図書							
実務経験	大学歯学部、歯科衛生士専門学校での教育経験、大学附属病院での臨床経験						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	保存修復の概要	4	10	木	2	保存療法の種類、歯及び歯周疾患の検査、治療法の概要について説明できる。	
2	硬組織疾患		16	水	2	保存修復で扱う齶蝕ならびにその他の硬組織疾患について説明できる。	
3	検査		24	木	2	保存修復領域の検査について説明できる。	
4	窩洞		30	水	2	窩洞の構成、分類について説明できる。	
5	直接法修復①	5	7	水	1	コンポジットレジン修復について説明できる。	
6	直接法修復②		7	水	1	ガラスアイオノマーセメント修復について説明できる。	
7	間接法修復①		14	水	1	インレー修復(CAD/CAMを含む)について説明できる。	
8	間接法修復②		14	水	1	ベニア修復、合着材及び接着材について説明できる。	
9	歯の漂白		21	水	1	着色歯、変色歯の原因と処置法について説明できる。	
10	補修修復		21	水	0.5	適応症と術式について説明できる。	
11	歯科衛生士の役割		21	水	0.5	保存修復における歯科衛生士の役割について説明できる。	
12	保存修復学のまとめ		28	水	2	国家試験に対応できる。	
13	試験	6	4	水	1		
14	試験解説		4	水	1		
15							
16							
17							
18							
19							
20							

専門分野

担当科目	歯周療法学(歯周病学)				講師	田村 利之		
時間(単位)数	1単位	27時間		実施時期	2	学年	前期	
一般目標(GIO)	歯周病の基礎知識を理解し歯周治療に必要な基本的知識と技術を習得する							
授業概要	歯周療法に必要な基礎知識と技術を習得するための講義を主体とする							
学習方法	講義			成績評価の方法		期末テスト、出席状況		
教科書	最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版							
参考図書	歯科衛生士講座 歯周病学 第5版 永末書店							
	臨床歯周病学 第3版 医歯薬出版							
実務経験	神奈川歯科大学付属病院、同付属横浜研修センター・横浜クリニックにて臨床経験あり							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	歯周治療とは	6	12	木	3	歯周病の現状と治療について理解し、説明できる。		
2	歯周組織の構造と機能	6	19	木	3	正常な歯周組織の構造と機能について理解し、説明できる。		
3	歯周病の原因と分類	6	26	木	3	歯周病の原因ならびに、分類について理解し、説明できる。		
4	歯周治療の進め方	7	3	木	3	歯周治療の基本と進め方を理解し、説明できる。		
5	歯周病検査	7	10	木	3	歯周病の検査について理解し、説明できる。		
6	歯周基本治療	7	17	木	3	歯周基本治療の目的と内容について理解し、説明できる。		
7	歯周外科治療	7	24	木	3	歯周外科治療の目的と種類について理解し、説明できる。		
8	口腔機能回復治療	9	4	木	3	歯周治療における口腔回復治療を理解し、説明できる。		
9	SPT、メインテナンス	9	11	木	3	Supportive Periodontal Therapy とメインテナンスの重要性と流れを理解し、説明できる。		
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

担当科目	歯内療法学				講師	田中利典	
時間(単位)数	1 単位		27 時間		実施時期	2 学年	前期
一般目標 (GIO)	歯髄疾患および根尖性歯周炎について、基礎的な知識を習得する。 歯髄疾患及び根尖性歯周炎の治療における歯科衛生士の役割を習得する。						
授業概要	歯髄疾患および根尖性歯周炎について、基礎知識、治療法、歯科衛生士の役割を理解する。						
学習方法	講義				成績評価の方法	小テスト: 30% まとめテスト: 30% 本試験: 40%	
教科書	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版株式会社						
参考図書							
実務経験	病院(国内、米国)及び歯科医院(国内)での臨床経験あり						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標 (SBOs)	
1	歯内療法の概要	4	10	木	1.5h	歯内療法学の目的を説明できる。	
2	歯内療法の概要	4	10	木	1.5h	歯髄疾患、根尖性歯周炎の処置、方針を理解できる。	
3	歯内療法の検査	4	15	火	1.5h	歯髄炎および根尖性歯周炎の検査を説明できる。	
4	消炎鎮痛、間接覆髄	4	15	火	1.5h	歯髄保存療法の概略、治療法を説明できる。	
5	直接覆髄	4	17	木	1.5h	歯髄保存療法の概略、治療法を説明できる。	
6	生活断髄	4	17	木	1.5h	歯髄保存療法の概略、治療法を説明できる。	
7	抜髄	4	24	木	1.5h	歯髄除去療法の概略、治療法を説明できる。	
8	ラバーダム、作業長	4	24	木	1.5h	無菌的処置、根管治療の作業長について説明できる。	
9	根管形成、根管洗浄	5	1	木	1.5h	根管形成の目的、種類、術式を説明できる。	
10	根管消毒、仮封	5	1	木	1.5h	根幹洗浄および仮封の目的、種類、術式を説明できる。	
11	根管充填	5	8	木	1.5h	根管充填の目的、種類、術式を説明できる。	
12	根管充填	5	8	木	1.5h	根管充填の目的、種類、術式を説明できる。	
13	根未完成歯	5	15	木	1.5h	今未完成歯の治療法を説明できる。	
14	外科的歯内療法	5	15	木	1.5h	外科的歯内療法の各手法を説明できる。	
15	歯の外傷、歯の漂白	5	22	木	1.5h	歯の外傷の分類、対処法、および歯の漂白を説明できる。	
16	まとめテスト	5	22	木	1.5h	まとめテストの実施。	
17	歯科衛生士の役割	5	29	木	1.5h	歯内治療における歯科衛生士の役割について説明できる。	
18	予防医療、本試験	5	29	木	1.5h	歯内治療を避けるための予防医療について説明できる。本試験の実施。	
19							
20							

専門分野

担当科目	歯科補綴				講師	澤田 智慈		
時間(単位)数	1 単位	30	時間	実施時期	2	学年	前期	
一般目標(GIO)	歯科補綴治療に関する基礎知識と治療の実際を理解し習得							
授業概要	歯・口腔・顎の欠損から生じる失われた形態と障害された機能を、人工装置を用いて回復し、さらに続発疾病の予防を図ることを目的とする歯科補綴について理解すること。							
学習方法	講義 スライドを用いて実施			成績評価の方法	本試験	80%	小試験	10%
					出席	10%		
教科書	歯科衛生士学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版株式会社							
参考図書								
実務経験	神奈川県歯科大学での教員、同大学附属病院・湘南なかがわ歯科での臨床経験あり							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	歯科補綴の概要	4	9	水	2	補綴歯科治療の目的が概説できる。		
2	補綴歯科治療の基礎知識		16	水	2	補綴歯科治療における咬合と歯列にかかわる基本的な用語を概説できる。		
3	補綴歯科治療における検査		23	水	2	口腔内の検査、画像検査、咬合と顎機能検査の種類と特徴を説明できる。		
4	クラウン・ブリッジ治療		30	水	2	クラウン・ブリッジ治療の特徴を説明できる。		
5	有床義歯治療	5	7	水	2	全部床義歯治療の特徴、治療の流れを説明でき、器材の準備ができる。		
6			14	水	2	部分床義歯治療の特徴、治療の流れを説明でき、器材の準備ができる。		
7	インプラント治療		21	水	2	インプラント治療の特徴、治療の流れを説明でき、器材の準備ができる。		
8	特殊な口腔内装置を用いる治療		28	水	2	特殊な口腔内装置の特徴を概説できる。		
9	歯科補綴学本試験	6	11	水	2	歯科補綴学本試験ならびに試験内容の解説。		
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

講義の大要 (SYLLABUS)

学科目	口腔外科学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	熊谷賢一・江口貴紀		第 2 学年		学期	後期	
一般目標 (GIO)							
口腔疾患の多種、多様な病態について、系統的に理解しその疾患への対応を学ぶことで歯科衛生士としてのかかわり方を習得する。また、歯科、口腔外科診療に必要とされる麻酔法および歯科治療中に偶発する全身的偶発事項の対応および救急蘇生法についても理解する。							
回数	授業計画・内容						
	授業計画・内容	学習目標					
1 2025/10/30 (木)AM 熊谷	有病者における歯科医療 診察と診断 滅菌・消毒	正しい診察、適切な診断方法を理解する。 口腔外科の歯科衛生士の役割を理解する。					
2 2025/11/6 (木)PM 熊谷	口腔外科の概要 顎関節疾患	歯科医療の口腔外科の位置づけを理解する。 顎関節疾患の診断・治療について理解する。					
3 2025/11/13 (木)PM 熊谷	先天異常・変形 血液疾患と出血性素因	先天異常(症候群・唇顎口蓋裂)・変形(顎変形症)の概念を説明できる。 血液疾患の概念を説明できる。					
4 2025/11/20 (木)PM 江口	口腔領域の損傷 口腔領域の炎症 口腔領域の嚢胞	口腔領域の損傷・炎症・嚢胞の概念を理解する。					
5 2025/11/27 (木)PM 熊谷	創傷処置 口腔外科小手術 (抜歯・嚢胞摘出・インプラント)	創傷治癒および創傷処置を理解する。 手術法、手順、器具、抜歯の手順を理解し適切な準備ができる。					
6 2026/1/8 (木)PM 江口	口腔癌手術・再建手術 摂食嚥下リハビリテーション	口腔癌の治療概念を理解する。 摂食嚥下機能障害を理解する。					
7 2026/1/15 (木)PM 江口	口腔領域の神経疾患 口腔領域の唾液腺疾患 歯科口腔外科の麻酔	各種疾患の概念を理解する。 各種疾患の概念を理解する。 静脈内鎮静法・全身麻酔の概念を理解する					
8 2026/1/22 (木)PM 熊谷	口腔粘膜疾患・前癌病変・腫瘍概論 良性腫瘍(歯原性腫瘍・非歯原性腫瘍)	粘膜疾患・前癌病変・口腔癌の概念を理解する。 良性腫瘍の概念を理解する。					
9 2026/1/29 (木)PM 熊谷	試験 問題解説	口腔外科学の試験を実施し、解説講義により理解を深める。					
成績評価方法		出席状況・講義終了後の試験により評価					
指定教科書	『歯科衛生士講座 口腔外科学 第2版』				著者	古森孝英 (著、編集)	
					出版社	永末書店	
参考図書	『歯科衛生士講座 歯科衛生士のための 口腔外科学』				著者	全国歯科衛生士教育協議会 編	
					出版社	医歯薬出版	

担当科目	小児歯科学		講師	今井裕樹	
時間(単位)数	1 単位	30時間	実施時期	2学年	前期
一般目標 (GIO)	・小児の長期的口腔健康管理を実践する能力を身につけるために、小児期の口腔疾患および異常に対し、成長・発達を考慮した予防法ならびに治療法の理論を修得する。 ・障害児に対する適切な口腔健康管理を実践する能力を身につける。				
授業概要	本講義を通じて、小児歯科が一口腔一単位で診療を総合的に行う総合歯科であると同時に、疾患への対応だけでなく、保健学をもとに指導を通じて心身の健全な育成を図る育成医療であることを理解する。				
学習方法	講義		成績評価の方法	試験:80% 出席:20%	
教科書	永末書店 新谷誠康 編集主幹 歯科衛生士講座 「小児歯科学」				
参考図書	・医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 最新歯科衛生士教本「小児歯科」 ・クインテッセンス出版株式会社 関本恒夫 著 東理十三雄 監修 歯科臨床と診療補助シリーズ⑥ 「小児歯科学と診療補助」				
実務経験	大学病院・診療所、歯科医院での臨床経験28年				
授業計画					
No	授業項目	到達目標 (SBOs)			
1	小児歯科学概論	小児歯科の特徴を説明する。 小児歯科の目的を理解し、説明する。 小児の発育段階とその時期の口腔の変化を説明する。			
2	心身の発育	発育の概念を説明する。 発育の原則を理解し、説明する。 小児期を分類し、その特徴を説明する。 小児の発育状態を評価する方法を説明する。 生理的年齢を説明する。 器官の発育の特徴を説明する。			
3	小児の生理的特徴	小児のバイタルサインとその特徴を説明する。 小児の薬物感受性の特徴を理解し、薬剤処方について説明する。			
4	顔面頭蓋の発育	脳頭蓋、顔面頭蓋の発育の特徴を説明する。 上下顎の発育と成長様式を説明する。 顎顔面頭蓋の発育の評価法を列挙する。 顎顔面頭蓋の発育と歯の萌出との関係を概説する。			
5	歯の発育とその異常	乳歯の特徴を説明する。 幼若永久歯の特徴を説明する。 歯の発育の概要を説明する。 歯の形成異常を説明する。 歯の萌出時期と順序を説明する。 歯の萌出異常を説明する。			
6	歯列・咬合の発育と異常	歯列の発育分類を説明する。 各歯列期の臨床的特徴を述べる。 ヘルマンの咬合発育段階を説明する。 歯列および咬合の発育異常を概説する。 口腔習癖に起因する不正咬合の特徴を述べる。			
7	小児の歯科疾患	齲蝕の病因と予防法を説明する。 乳歯齲蝕の特徴、為害性、罹患型と年齢別の好発部位を説明する。 幼若永久歯の齲蝕の特徴を説明する。 小児の口腔粘膜や歯肉に現れる疾患を説明する。 唇顎口蓋裂の問題点と小児歯科の関わりを説明する。 小児の歯周組織の特徴を説明する。			
8	小児期の特徴と歯科的問題点	小児期の特徴と歯科疾患を説明する。			
9	小児歯科における診療体系	小児歯科診療の特徴を説明する。 母親教室の目的を説明する。 乳歯と幼若永久歯の臨床的特徴と歯冠修復時の注意事項を列挙する。 小児の歯内療法、外科的処置、外傷の処置を概説する。 咬合誘導の意味を説明する。 リコール(定期健診)の意義を説明する。			
10	小児歯科における患者との対応法	小児歯科と成人歯科との対応法の違いについて説明する。 小児の情動や考え方などの精神発達を理解し、年齢別対応法を説明する。 歯科診療室における小児の態度や行動に影響を及ぼす要因を説明する。 歯科診療室における小児の対応法の種類と概要を説明する。 歯科衛生士としての対応法の要点について説明する。			
11	障害児の歯科治療	障害児の特徴と健常児との違いを説明する。 知的障害(精神遅滞)について説明する。 障害児の歯科保健について説明する。 障害児の歯科治療に用いる器材を説明する。 障害児に対する歯科治療を行ううえでの問題点を説明する。			
12	試験・解説				

担当科目	歯科矯正学				講師	野嶋 邦彦		
時間(単位)数	1単位	30時間		実施時期	2	学年	前期	
一般目標(GIO)	歯科矯正学を学ぶために必要な顎顔面の成長発育、咬合についての知識を習得する。不正咬合に対する治療意義、診断・治療および予防法を理解し、説明できる。矯正歯科診療を補助するために必要な知識を習得する。							
授業概要	歯科衛生士として必要な歯科矯正学の基礎的知識を理解する。 歯科衛生士として必要な矯正臨床の知識を理解する。 歯科衛生士として必要な器具・器材の知識を理解する。 毎講義の最後にポストテストを行い、基本的知識の着実な習得を図る。							
学習方法	講義 スライド・ビデオ ポストテスト			成績評価の方法	筆記試験 100%			
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学 第2版」						医歯薬出版	
参考図書								
実務経験	病院・歯科医院での臨床経験あり。							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	歯科矯正学概論	5	27	火	1.5	矯正治療の目的と意義について説明できる。		
2	成長発育	5	27	火	1.5	頭蓋・顔面、歯列の成長発育、口腔機能の発達について説明できる。		
3	正常咬合と不正咬合	6	3	火	3	正常咬合と不正咬合の特徴と種類、不正咬合の原因について説明できる。		
4	検査と診断	6	10	火	3	矯正診断に必要な診査、検査、症例分析について説明できる。		
5	生体力学と生体反応	6	17	火	3	歯の移動における固定、組織反応、移動様式、矯正力、顎矯正力について説明できる。		
6	矯正歯科治療と装置	6	24	火	3	矯正装置の種類、特徴、適応症および使用目的を説明できる。		
7	矯正歯科治療の実際	7	1	火	3	各種不正咬合に対する診断、治療方針、治療目標、矯正治療を理解できる。		
8	器具・器材	7	8	火	3	矯正治療に用いる器具・器材について説明できる。		
9	器具・器材	7	15	火	3	エッジワイズ治療に用いる器具・器材について説明できる。		
10	口腔筋機能療法(MFT)	7	22	火	1.5	口腔筋機能療法の目的、指導法について説明できる。		
11	口腔衛生管理と指導	7	22	火	1.5	矯正治療患者における口腔保健の特徴、管理、指導法について説明できる。		
12	試験・解説	7	29	火	3			
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

担当科目	歯科放射線				講師	五十嵐千浪		
時間(単位)数	1 単位	30 時間		実施時期	2 学年	前期		
一般目標 (GIO)	歯科診療におけるエックス線装置を安全に取扱えられ、X線画像の解釈ができ、放射線防護について理解し、実践できること。							
授業概要	X線の発生、撮影装置の構造についての正しい知識を理解すること パノラマX線装置の構造、撮影手順、画像処理について理解すること エックス線像の解釈ができること その他の画像検査法の種類を列挙、理解し、放射線治療の有害事象を列挙、理解できること							
学習方法	講義			成績評価の方法	定期試験:95%、受講態度5%			
教科書	最新 歯科衛生士教本 歯科放射線 医歯薬出版							
参考図書								
実務経験	鶴見大学歯学部および鶴見大学歯学部付属病院勤務							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標 (SBOs)		
1	放射線物理、影響	4	7	月	3h	放射線の種類を列記し、その量と人体への影響と放射線防護を理解する		
2	X線撮影装置	4	14	月	3h	歯科用X線装置の構造を理解し、エックス線の発生を説明できる		
3	撮影補助器具	4	21	月	3h	X線検査の補助、画像処理について理解し、実施できること		
4	口内法X線検査	4	28	月	3h	口内法X線撮影の原理を理解し、撮影補助を実施できる		
5	X線像の解釈	5	12	月	3h	口内法X線像の解釈ができる		
6	パノラマX線検査	5	19	月	3h	パノラマX線撮影の原理を理解する		
7	パノラマX線検査	5	26	月	3h	パノラマX線像の解釈ができる		
8	特殊検査と放射線治療	6	2	月	3h	その他の画像検査を理解し、放射線治療の有害事象を理解する		
9	定期試験	6	9	月	3h	定期試験実施とその解説		
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								



担当科目	高齢者歯科学				講師	深山 治久	
時間(単位)数	1単位	30時間		実施時期	2 学年	前期	
一般目標(GIO)	高齢者の身体・生活機能・社会環境・心理的特徴を把握して対応を習得する 高齢者に対する歯科診療上の注意点を習得する						
授業概要	高齢者の身体・生活機能・社会環境・心理的特徴を理解する 摂食嚥下リハビリテーションや訪問診療を含めた歯科診療の注意点・口腔をケアする留意点						
学習方法	講義・実習			成績評価の方法	筆記試験70% 実技試験20% 出席・レポート10%		
教科書	最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版 医歯薬出版(株)						
参考図書	老年歯科医学 医歯薬出版(株)						
実務経験	病院・歯科医院での臨床経験あり						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	高齢者を取り巻く社会	5	30	金	1	高齢者を取り巻く社会の特徴と課題を説明できる	
2	高齢者の身体機能の変化	5	30	金	1	若年者と高齢者との身体機能の差異, 加齢に伴う変化を説明できる	
3	高齢者の心理的变化	5	30	金	2	加齢に伴うしんりてきへんかをせつめいできる	
4	高齢者の全身疾患①	6	6	金	2	加齢に伴い増加する全身疾患を説明できる	
5	高齢者の全身疾患②	6	6	金	1	歯科診療時に注意すべき全身疾患を説明できる	
6	高齢者の全身状態の評価	6	6	金	1	歯科診療時の全身状態を評価できる	
7	高齢者の生活機能	6	13	金	2	歯科診療時に配慮すべき高齢者の生活機能を説明できる	
8	高齢者の栄養状態	6	13	金	2	歯科診療時に配慮すべき高齢者の栄養状態を説明できる	
9	高齢者の薬剤服用	6	20	金	2	高齢者の薬剤服用の特徴を説明できる	
10	高齢者の口腔の機能	6	20	金	2	高齢者の口腔機能を説明できる	
11	有病高齢者の口腔のケア	6	27	金	2	有病高齢者の口腔をケアできる	
12	要介護高齢者の口腔のケア①	6	27	金	1	要介護高齢者の口腔をケアできる	
13	要介護高齢者の口腔のケア②	7	4	金	1	要介護高齢者の口腔をケアできる	
14	誤嚥性肺炎	7	4	金	2	誤嚥性肺炎について説明できる	
15	摂食嚥下リハビリテーション①	7	11	金	1	摂食嚥下リハビリテーションについて説明できる	
16	摂食嚥下リハビリテーション②	7	11	金	1	摂食嚥下リハビリテーションを理解し介助できる	
17	在宅訪問診療	7	18	金	2	在宅訪問診療を理解し介助できる	
18	歯科と公的介護保険	7	18	金	2	歯科と公的介護保険を説明できる	
19	かかりつけ歯科	7	25	金	1	かかりつけ歯科を説明できる	
20	訪問介護と歯科	7	25	金	1	訪問介護と歯科との連携を説明できる	

担当科目	障害者歯科学				講師	宮城 敦	
時間(単位)数	1単位	30時間		実施時期	2 学年	後期	
一般目標(GIO)	障害者の身体的、知的、および精神的特徴と特有の口腔機能障害について理解する。障害者とその家族に対して適切な態度と行動を習得する。						
授業概要	障害者の歯科診療では治療や指導および患者管理に特別な配慮を必要とする。その全身の特徴と局所の特徴(口腔機能)、および対応法について理解する。						
学習方法	講義			成績評価の方法		筆記試験 99~100% 特に優れた提出物は加点する(0~1%)	
教科書	最新歯科衛生士教本「障害者歯科」第2版 医歯薬出版						
参考図書							
実務経験	歯科大学附属病院で臨床経験あり						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	定義、歴史、現状	10	3	金	1.5	① 障害者の定義を説明できる。② ノーマライゼーションについて説明できる。	
2	障害者の生活と歯科的支援	10	3	金	1.5	① 障害者歯科の定義・歴史を説明できる。② チームアプローチを説明できる。	
3	患者の行動調整 1	10	10	金	1.5	① 種々の行動調整法を説明できる(行動変容法など)。	
4	患者の行動調整 2	10	10	金	1.5	② 種々の行動調整法を説明できる(体動コントロール法、薬理学的方法など)。	
5	感覚器障害と歯科的対応	10	17	金	1.5	① 視覚障害の症状と対応について説明できる。② 聴覚障害の症状と対応について説明できる。	
6	てんかん、薬剤	10	17	金	1.5	① てんかんの症状と対応について説明できる。② 関係のある薬剤について説明できる。	
7	知的能力障害	10	24	金	1.5	① 知的能力障害の症状と対応について説明できる。② ダウン症候群の症状と対応について説明できる。	
8	発達障害1	10	24	金	1.5	① 限局性学習障害の症状と対応について説明できる。② 注意欠如多動症の症状と対応を説明できる。	
9	発達障害2	11	7	金	1.5	① 自閉スペクトラム症の症状と対応について説明できる。	
10	脳性麻痺	11	7	金	1.5	① 脳性麻痺の症状と対応について説明できる。	
11	重症心身障害・筋ジス他	11	14	金	1.5	① 重症心身障害について説明できる。② 進行性筋ジストロフィーについて説明できる。③ 筋萎縮性側索硬化症について説明できる。	
12	口腔衛生管理	11	14	金	1.5	障害者への口腔衛生管理法について説明できる。	
13	障害者歯科の実際	11	21	金	1.5	映画鑑賞「さあ、お口をあけて！」障害者歯科診療の実際を理解する。	
14	障害者歯科の実際 2	11	21	金	1.5	映画鑑賞「さあ、お口をあけて！」障害者歯科診療の実際を理解する(続き)。	
15	脊髄損傷・摂食嚥下機能	11	28	金	1.5	① 脊髄損傷の症状と対応について説明できる。② 障害者の摂食嚥下機能について説明できる。	
16	振り返り授業	11	28	金	1.5	① 障害者歯科全般について整理し、理解する。	
17	期末試験	12	5	金	1.5	理解度を確認する。	
18	期末試験の解説	12	5	金	1.5	理解不足の部分を再確認し、完全に理解する。	
19							
20							

担当科目	摂食嚥下機能学				講師	石川好美		
時間(単位)数	1単位	15	時間	実施時期	2	学年	後期	
一般目標(GIO)	摂食嚥下機能を解剖学的ならびに生理学的に理解する。 摂食嚥下障害を起こす疾患や病態を理解し、その検査法や評価法を習得する。 摂食嚥下障害のリハビリテーションを習得する。またオーラルフレイルについて理解する							
授業概要	正常な摂食嚥下運動を解剖学的ならびに生理学的に理解する。 摂食嚥下機能が障害される疾患を理解し、各種病態に対する検査法や評価法を理解する。 摂食嚥下障害のリハビリテーションを習得する。またオーラルフレイルについて理解する。							
学習方法	講義 相互実習 動画視聴			成績評価の方法		試験90% レポート5% 授業態度5%		
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版 医師薬出版							
参考図書	経口摂取マニュアル							
実務経験	藤沢市民病院・横浜市立大学にて臨床経験あり。							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	口腔の機能について	9	5	金	1.5	口腔が持つ機能を理解し説明できる。		
2	摂食嚥下機能の解剖学	9	5	金	1.5	摂食や嚥下に関わる解剖学的知識を習得する。		
3	摂食嚥下機能の生理学	9	12	金	1.5	摂食嚥下メカニズムを理解する、唾液の働きを理解する、摂食嚥下の生理学的知識を習得する。		
4	摂食嚥下機能の発達	9	12	金	1.5	乳児期から成人までの摂食嚥下機能の発達を理解する。		
5	口腔機能低下症	9	19	金	1.5	一連の口腔機能の低下について理解する。		
6	口腔機能検査法	9	19	金	1.5	口腔内診査の方法を理解し、口腔の機能を評価するための検査方法を習得する。		
7	摂食嚥下リハビリテーション	9	26	金	1.5	直接訓練・間接訓練の方法を理解する。		
8	オーラルフレイル	9	26	金	1.5	オーラルフレイルを説明できるように理解する。		
9	試験・解説	10	3	金	3	進級試験と解説		
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

担当科目	臨床検査法				講師	井上 孝 國分克寿	
時間(単位)数	1単位	24時間		実施時期	2 学年	後期	
一般目標 (GIO)	臨床検査の意義を理解する。 歯科診療に関係の深い一般的な臨床検査項目を中心にその方法と結果の解釈を習得する。						
授業概要	教科書をベースに配布資料、講義スライドを用いて実際の臨床でどのように臨床検査が行われているのかを理解する。						
学習方法	講義、ビデオ			成績評価の方法		筆記試験 100%	
教科書	歯科衛生学シリーズ「臨床検査」 医歯薬出版株式会社						
参考図書							
実務経験	東京歯科大学病理学講座						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標 (SBOs)	
1	臨床検査概論	10	2	木	3	疾病を理解し、検査の目的、検査値の変動の理由を説明できる。	
2	血液学的検査の基本	10	9	木	1.5	血液の組成、採血法、血算などの検査を説明できる。	
3	赤血球の検査	10	9	木	1.5	赤血球に関連する検査と疾患に関して説明できる。	
4	白血球の検査	10	16	木	1.5	白血球に関連する検査と疾患に関して説明できる。	
5	感染症の検査	10	16	木	1.5	微生物学的検査、感染症に関わる検査と主な感染症の検査を説明できる。	
6	免疫・血清学的検査	10	23	木	3	アレルギーおよび自己免疫疾患の検査を説明できる。血液型の検査を説明できる。	
7	出血・凝固系検査	10	30	木	3	血小板・凝固因子・線溶系因子に関する検査と疾患に関して説明できる。	
8	肝機能・腎機能の検査	12	4	木	1.5	肝機能や腎機能の検査と疾患に関して説明できる。	
9	糖尿病・内分泌疾患の検査	12	4	木	1.5	糖尿病の病態と検査を説明できる。主な金属の検査、ビタミンの検査、主なホルモンの検査を説明できる。	
10	病理学的検査、口腔領域の検査	12	11	木	1.5	細胞診、組織診などの病理学的検査を説明できる。唾液分泌の検査、口臭の検査、味覚の検査等に関して説明できる。	
11	生理機能検査	12	11	木	1.5	バイタルサインに関わる検査、心機能検査、肺機能検査に関して説明できる。	
12	試験・解説	12	18	木	3		
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

専門分野

担当科目	社会保険				講師	上條英之		
時間(単位)数	1 単位	15	時間	実施時期	2	学年	後期	
一般目標(GIO)	わが国の社会保険制度について、基本的仕組みを理解する。 個々の社会保険について、制度の特徴を理解し、今後の見直しの方向性を把握する 歯科診療所の運営における社会保険の役割を理解する。							
授業概要	わが国の社会保険制度である医療保険、介護保険、年金、雇用保険、労働者災害補償保険について制度の仕組みについて理解するとともに社会保険の制度との関連性が高い社会福祉の制度を理解する。							
学習方法	講義			成績評価の方法		筆記試験100%		
教科書	歯科保健医療に関連する社会保障制度と関係法規(第4版)							
参考図書	厚生労働白書							
実務経験	厚生労働省等で行政官としての企画立案の経験。公財)8020推進財団で業務に一部従事							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	社会保障制度	12	4	木	1.5	制度の目的と概要、社会保障給付費、健康寿命、UHCが説明できる		
2	社会保険	12	4	木	1.5	社会保険の種類と特徴、用語の意味が説明できる。		
3	医療保険制度	12	11	木	1.5	制度の概要と仕組み、患者負担割合、保険外併用療養費制度を説明できる。		
4	医療保険制度	12	11	木	1.5	支払の仕組み、オンライン資格確認の概要を説明できる		
5	介護保険制度	12	18	木	1.5	制度の概要と仕組み、介護サービスの種類を説明できる。		
6	医療介護の連携体制	12	18	木	1.5	医療提供体制と地域包括ケアの概要を説明できる。		
7	年金・労働保険	1	8	木	1.5	年金の概要、雇用保険と労働者災害補償保険の概要を説明できる。		
8	社会福祉の知識	1	8	木	1.5	生活保護と社会福祉の概要を説明できる。		
9	試験・解説	1	15	木	3			
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								

専門分野

担当科目	歯科予防処置論Ⅱ		講師	佐々木真理子 氏原 真由	
時間(単位)数	3単位	90時間	実施時期	2 学年	前期 後期
一般目標(GIO)	口腔疾患を予防し人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識・技術および態度を習得する。				
授業概要	歯科予防処置についての専門的な知識、技術および態度を習得する。 歯周病の基礎知識を理解し基本的なスクレーリング技術を習得する。 う蝕の基礎知識を理解し予防法とその技術を習得する。				
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	筆記試験	60%
				実技試験	30%
				出席・レポート	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」			医歯薬出版	
	最新歯科衛生士教本「歯周病学」「保健生態学」			医歯薬出版	
実務経験	病院・歯科医院での臨床経験あり。				
授業計画					
No	授業項目		到達目標(SBOs)		
1	1.5	問診表について	問診の重要性を理解し起こりやすい事故の対応について理解する。		
2	3	PMTC/歯面研磨	歯面研磨・PMTCの目的・種類・使用器材・使用方法について理解ができる。		
3	3	マネキン訓練実習①	スクレーリングの復習を行う。		
4	3	マネキン訓練実習②	スクレーリングの復習を行う。		
5	3	マネキン訓練実習③	口腔内診査の復習を行う(プラークチェック・動揺度・CPT・プローピング)		
6	3	マネキン訓練実習④	歯面研磨・PMTCの基本操作を行 術式・方法を理解する。		
7	1.5	パワー(機械的)スクレーラー	超音波スクレーラー・エア(音波)スクレーラーの特徴を理解できる		
8	3	パワー(機械的)スクレーラー	超音波スクレーラー・エア(音波)スクレーラーを操作できる。		
9	3	相互実習①	口腔内診査が理解できる。		
10	3	相互実習②	プローピング・動揺度・コンタクトポイントテストの診査について理解できる。		
11	3	相互実習③	歯面研磨・PMTCの目的・種類・使用器材・使用方法について理解ができる。		
12	3	相互実習④	前歯部のスクレーリングができる。		
13	3	相互実習⑤	右側臼歯部のスクレーリングの基本操作ができる。		
14	3	相互実習⑥	左側臼歯部のスクレーリングの基本操作ができる。		
15	3	相互実習⑦	超音波スクレーラーエアースクレーラーの特徴・適応症について理解し基本操作ができる。		
16	3	実技試験①	探針操作・プローピング・動揺度・コンタクトポイントの操作ができる。		
17	3	実技試験②	前歯部のスクレーリングの操作ができる		
18	3	実技試験③	臼歯部のスクレーリングの操作ができる。		
19	3	実技試験④う蝕活動性試験	復習・口頭試問による試験。各試験の説明ができる。		
20	3	相互実習⑧	口腔内診査・スクレーリング・歯面研磨ができる。		
21	3	相互実習⑩	超音波スクレーラーの応用操作ができる。		
No	授業項目		到達目標(SBOs)		
22	3	期末試験(筆記試験)			

専門分野

担当科目	歯科保健指導論Ⅱ		講師	野原 早苗	高橋 温子
時間(単位)数	2単位	60時間	実施時期	2学年	前期 後期
一般目標(GIO)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授業概要	歯科保健指導や口腔清掃指導に必要な知識や技術を講義、実習を通して学ぶ。集団幼児への健康教育活動(臨地実習)を行う。				
学習方法	講義 実習 その他	成績評価の方法		筆記試験 出席率・レポート他	
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
参考図書	歯科衛生学シリーズ「保健生態学」 医歯薬出版				
実務経験	歯科医院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	分析のためのデータ	口腔清掃や歯周疾患、う蝕の指標を説明できる			
2	食生活指導のための基礎知識	食生活・食習慣の背景を説明できる			
3		健康を維持するための栄養情報を説明できる			
4		食品とう蝕の関連性を説明できる			
5		食品と歯科疾患の関連性を説明できる			
6		う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる			
7		咀嚼の働きを説明できる			
8		保健行動支援のための基礎知識	歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる		
9	保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる				
10	口腔の機能的問題の把握	口腔の機能的な問題を把握できる			
11	口腔機能管理に関わる指導	口腔機能管理に関する指導ができる			
12	生活習慣の指導	非感染性疾患(NCDs)の症例に合わせた歯科保健指導ができる			
13		禁煙指導・支援ができる			
14	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの指導ができる			
15	地域歯科保健活動における健康教育	健康教育の対象と場の特徴を概説できる			
16		健康教育の評価を説明できる			
17		健康教育活動の方法を説明できる			
18		健康教育に必要な情報を収集できる			
19	集団幼児への歯科保健教育	集団幼児(保育園、幼稚園)を対象とした健康教育ができる			
20	相互実習	歯科衛生介入としての保健指導ができる			

23	3	中間試験(筆記試験)	
24	3	シャープニング①	シャープニングの目的・知識について理解できる
25	3	シャープニング②	シックルスケーラーのシャープニングができる
26	3	シャープニング③	キュレットスケーラーのシャープニングができる
27	3	フッ化物の応用①	フッ化物応用法を説明できる。フッ化物の毒性と急性中毒への対応を説明できる。
28	3	フッ化物の応用②	フッ化物局所応用によるフッ化物歯面塗布について理解できる
29	3	小窩裂溝填塞法(フィッシャーシーラント)	小窩裂溝填塞法について説明できる
30	3	小窩裂溝填塞法(フィッシャーシーラント)	小窩裂溝填塞ができる(マネキン)
31	3	小窩裂溝填塞法(フィッシャーシーラント)	小窩裂溝填塞ができる(相互実習)
	90		



専門分野

担当科目	歯科診療補助論Ⅱ		講師	須藤遥香 高橋温子 大森理乃		
時間(単位)数	2単位	51 時間	実施時期	2 学年	前期	後期
一般目標(GIO)	歯科診療補助の概要を理解し、安全で円滑な歯科診療が行えるよう、専門的な知識・技術及び態度を習得する。 相互実習を通して、臨床の現場で対応出来る知識・技術を習得する。					
授業概要	医療安全及び感染予防の知識を身に付け実施出来る。 診療に必要な器具や器材の知識と取扱いを理解し習得する。 円滑に歯科診療補助が行えるよう共同動作を習得する。					
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	筆記試験	60%	
				実技試験	30%	
				出席・レポート	10%	
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」			医歯薬出版		
	最新歯科衛生士教本「歯科材料」「歯科器材」			医歯薬出版		
実務経験	歯科医院での臨床経験あり					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	ユニットの取扱い バキュームテクニック	歯科用ユニットの取扱いと患者対応の基本を理解する。バキュームテクニックを習得する。				
2	予診記号(相互)	相互実習にて口腔内情報を予診記号を用いてカルテに記入できる。				
3	ラバーダム防湿 (マネキン)	ラバーダム防湿に必要な器具を理解し手順を習得する。				
4		迅速かつ確実にラバーダム防湿が行える。				
5	相互実習前実技試験	マネキン実習にて迅速かつ確実にラバーダム防湿が行える。				
6	ラバーダム防湿(相互)	相互実習にて迅速かつ確実にラバーダム防湿が行える。				
7	仮封材	ストップングキャリアの取扱い・仮封材の取扱い				
8	保存療法時の診療補助	直接修復の診療補助に必要な器材を理解し術式を習得する。				
9	歯内療法時の診療補助	歯内療法時(麻酔抜髄法)の治療内容、器材を理解し、共同動作を身に付ける。				
10		歯内療法時(麻酔抜髄法)の治療内容、器材を理解し、診療補助を習得する。				
11	臨床実習前試験①	歯内療法時(麻酔抜髄法)の治療前準備と診療補助をスムーズに行える。				
12	歯内療法時の診療補助 (根充)	歯内療法時(根充)の治療内容、器材を理解する。				
13		歯内療法時(根充)の治療内容、器材を理解し、診療補助を習得する。				
14	臨床実習前試験②	歯内療法時(根充)の治療前準備と診療補助をスムーズに行える。				
15	口腔外科時の診療補助 (普通抜歯)	口腔外科時(普通抜歯)の診療補助、抜歯鉗子を理解する。清潔域・不潔域を理解する。				
16		口腔外科時(普通抜歯)の診療補助を習得する。歯科用麻酔を理解する。				
17	臨床実習前試験③	口腔外科(普通抜歯)時の治療前準備と診療補助をスムーズに行える。				
18	デンポラリークラウン の製作・仮着	既製冠を用いてデンポラリークラウンを製作し、必要器具・器材と手順を理解する。				

特別科目

担当科目	臨地臨床実習 I		講師	各実習施設実習指導員	
時間(単位)数	8単位	360時間	実施時期	2 学年	前期 後期
一般目標(GIO)	医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を修得するために現場における歯科衛生士の役割を理解し、基本的な態度を身につける。				
授業概要	各診療所の実習指導員の指導の下で基本的な態度、知識、技術を修得する。				
学習方法	臨床実習テキスト I に基づく。		成績評価の方法	各実習所指導員の評価点数 出席点	
教科書					
参考図書					
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	臨地臨床実習	1. 医療人としての身だしなみ、姿勢、言葉使いを身につけて行動する。			
2		2. 自己の体調管理を行う。			
3		3. 患者及び歯科医院の守秘義務を遵守する。			
4		4. 公私の区別、実習上のルールを守って実習する。			
5		5. 患者を尊重し、受容的・共感的態度で接する。			
6		6. 患者やスタッフに対して感謝と敬意を表す。			
7		7. 患者やスタッフとコミュニケーションを図り、チーム医療を理解する。			
8		8. 実習に積極的に取り組み、疑問等は自ら調べ質問する。			
9		9. 実習に対して報告、連絡、相談をする。			
10		10. レポート等の提出期限を守る。			
11					
12		歯科診療補助の施術を見学する。			
13		歯科保健指導を見学する			
14		歯科予防処置の施術を見学する			
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	看護概論				講師	志村央子	
時間(単位)数	2単位	30時間		実施時期	2 学年	前期	
一般目標(GIO)	看護の概念を知り、保健・医療・福祉における看護の機能と役割について理解を深める。看護の知識と技術の基礎を学び、全身管理能力を身につける。歯科保健における他職種連携と協働の重要性を理解する。						
授業概要	看護の概念、機能と役割について講義を通して理解を深める。看護師、歯科衛生士に必要な共通知識、技術(バイタルサイン測定、摂食嚥下、診療の補助業務など)を演習を通して習得する。地域包括ケアシステムの理解と実例を基に、地域医療活動における歯科衛生士の役割を学ぶ。						
学習方法	講義・演習			成績評価の方法	演習出席点 30% レポート 10% 筆記試験 60%		
教科書	歯科衛生士のための看護学大意(第3版) 医歯薬出版						
参考図書	新体系看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術 I・II 看護がみえるvol.1・2 基礎看護技術・臨床看護技術						
実務経験	病院勤務						
授業計画							
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)	
1	病院における歯科衛生士の役割 看護の概念	4	11	金	2	病院における歯科衛生士の役割を知ることができる。及び看護の概念を知ることができる。看護の概念を知ることができる。	
2	看護技術の基礎① バイタルサイン測定演習	4	25	金		バイタルサイン測定の実際を体験することができる。また、正常値が理解できる。コミュニケーション技術の在り方について、理解することができる。	
3	看護技術の基礎② 摂食に関わる援助 与薬、嚥法、吸引、吸	5	2	金		口から食べる事の意義を理解し、安全な食事摂取の方法が実践できる。与薬、嚥法、吸引、吸入の目的と原理、原則がわかる。	
4	看護技術の基礎③ 患者の安全と安楽	5	9	金		患者の安全と安楽を守るための安楽な体位の工夫がわかる。	
5	歯科衛生士に必要な看護実務① ・観察、記録、報告 ・病院外来での業務 ・入院を要する患者の看護 ・感染対策 ・洗浄、消毒、滅菌 ・医療安全対策	5	16	金		観察、記録、報告の目的と方法がわかる。外来、病棟での患者の特徴及び看護の役割がわかる。感染対策、洗浄・消毒・滅菌、医療安全対策の原則がわかる。	
6	歯科衛生士に必要な看護実務② 救急時の看護演習 点滴の管理演習	5	23	金		一時救命処置の実際が体験できる。点滴管理の方法がわかり、体験できる。	
7	地域社会における看護の在り方 保健・医療・福祉チームとの連携 在宅医療における歯科衛生士の役割	6	2	月		地域包括ケアシステムについて理解でき、地域での歯科衛生士の役割が理解できる。	
8	試験・解説	6	9	月		地域包括ケアシステムについて理解でき、地域での歯科衛生士の役割が理解できる。	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

担当科目	医療事務 II				講師	原 寿美子		
時間(単位)数	3単位	45	時間	実施時期	2	学年	前期	
一般目標(GIO)	医科診療報酬の入院算定までを学習し、正しい算定による外来・入院会計ができるようにするとともに、医療事務検定試験の合格を目指す。							
授業概要	医療事務従事者として必要な知識である診療報酬の算定のしかたを演習を交えて学ぶ。カルテ問題集等で具体的な算定のしかたを学ぶ内容とする。							
学習方法	講義・演習				成績評価の方法	学科試験 30% 実技試験 60% 出席 10%		
教科書	医療事務講座テキスト、カルテ問題集、カルテ問題集解答(日本医療事務協会)							
参考図書	なし							
実務経験	なし							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	手術①	4	8	火	3	手術料算定時の留意事項について理解できる。		
2	手術②・麻酔	4	15	火	3	手術料・麻酔料や加算について理解し正しい算定ができる。		
3	会計欄作成①	5	13	火	3	基本診療料～手術・麻酔まで算定練習をし理解を深める。		
4	検査①	5	20	火	3	検体検査料について理解し基本的な算定ができる。		
5	検査②・病理診断	5	27	火	3	生体検査料と病理診断について理解し基本的な算定ができる。		
6	画像診断	6	3	火	3	画像診断について理解し正しい算定ができる。		
7	会計欄作成②	6	10	火	3	基本診療料～画像診断まで算定練習をし理解を深める。		
8	会計欄作成③	6	17	火	3	テストを行い、外来カルテ算定の習得度を確認し、より理解を深める。		
9	入院①	6	24	火	3	入院の基本診療料・入院時食事療養費について理解し正しく算定ができる。		
10	入院②	7	1	火	3	入院の特掲診療料について外来との相違点を理解し正しく算定ができる。		
11	会計欄作成④	7	8	火	3	入院カルテについて算定練習をし正確な算定ができる。		
12	会計欄作成⑤	7	15	火	3	テストを行い、入院カルテ算定の習得度を確認し、理解を深める。		
13	検定試験対策①	7	22	火	3	模擬試験を行い、これまでの学習内容の再確認をし、より理解を深める。		
14	検定試験対策②	7	29	火	3	模擬試験の解説で弱点を見直し検定試験の直前対策を行う。		
15	検定試験/解説	8	1	金	3	検定試験実施/検定試験についてのポイントを解説し、間違えやすい点を整理する。		
16								
17								
18								
19								
20								

1214	1215	1216	1217	1218	1219
1220	1221	1222	1223	1224	1225
1226	1227	1228	1229	1230	1231
1232	1233	1234	1235	1236	1237
1238	1239	1240	1241	1242	1243

44期

3学年

1244	1245	1246	1247	1248	1249
1250	1251	1252	1253	1254	1255
1256	1257	1258	1259	1260	1261
1262	1263	1264	1265	1266	1267
1268	1269	1270	1271	1272	1273

湘南歯科衛生士専門学校

2025年度

3年生 44期生 30単位(945h)

<専門分野> 20単位(780h)

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者		
歯科予防処置論Ⅲ	3	90	講義・実習	前・後期	佐々木真理子	氏原真由	
歯科保健指導論Ⅲ	2	60	講義・実習	前・後期	野原 早苗	高橋温子	
歯科診療補助論Ⅲ	3	90	講義・実習	前・後期	須藤遥香	高橋温子	大森理乃
臨地・臨床実習Ⅱ	12	540	実習	前・後期	各実習所指導者		

※臨地・臨床実習Ⅱは、歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ、歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ、歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱを履修した者でなければ履修できない。

※臨地・臨床実習は所定日数すべて出席しなければならない。

(健康上等の理由により欠席した場合は、追加実習を行う場合もある。)

<選択必修分野> 特別科目 6単位(180h)

授業科目	単位数	時間数	授業形態	講期	担当者		
秘書実務(接遇マナー)	1	15	講義・演習	前期	黒川 亜紀子		
課題(卒後)研究	1	30	講義	前期	佐々木真理子	野原早苗	
総合学習	8	120	講義・演習	後期	野原早苗	佐々木 真理子	川瀬敏夫

専門分野

担当科目		歯科予防処置論Ⅲ		講師	佐々木眞理子 氏原 真由		
時間(単位)数		3単位	90時間	実施時期	3 学年	前期	後期
一般目標(GIO)		臨床実習Ⅰで学んだ知識・技術を基に臨床現場を意識した相互実習を行う。 総合実技試験を行う。					
授業概要		歯科衛生士の業務であるう蝕予防処置と予防的歯石除去法の技術を習得する。 歯周病・う蝕を予防し人々の歯・口腔の健康を維持増進させるために 専門的な知識・技術および態度を習得する。					
学習方法		講義・実習		成績評価の方法		筆記試験	60%
						実技試験	30%
						出席・レポート	10%
教科書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」				医歯薬出版	
参考図書		最新歯科衛生士教本「歯周病学」「保健生態学」				医歯薬出版	
実務経験		病院・歯科医院での臨床経験あり。					
授業計画							
No	授業項目		到達目標(SBOs)				
1	3	相互実習①	口腔内診査がスムーズに行える。(歯周組織の検査)				
2	3	相互実習②	前歯部のスクレーリングが行える。(シッケルスクレーラー)				
3	3	相互実習③	前歯部のスクレーリングが行える。(キュレットスクレーラー)				
4	3	相互実習④	臼歯部のスクレーリングが行える。(シッケルスクレーラー)				
5	3	相互実習⑤	臼歯部のスクレーリングが行える。(キュレットスクレーラー)				
6	3	マネキン実習	キュレットスクレーラの応用①				
7	3	マネキン実習	キュレットスクレーラの応用②				
8	3	相互実習⑥	超音波スクレーラーを操作する。				
9	3	相互実習⑦	超音波スクレーラーを操作する。				
10	3	相互実習⑧	超音波スクレーラーを操作する。				
11	3	講義	フッ化物の応用				
12	3	相互実習⑨	フッ化物の応用				
13	3	相互実習⑩	小窩裂溝填塞法(フィッシャーシーラント)				
14	3	相互実習⑪	PMTTC①				
15	3	相互実習⑫	PMTTC②				
16	3	シャープニング①	キュレットスクレーラーのシャープニングができる				
17	3	シャープニング②	キュレットスクレーラーのシャープニングができる				
18	3	メンテナンスについて	歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。				
19	3	メンテナンスについて	メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。				
20	3	期末試験					
21	9	実技試験					
22	6	国家試験対策①	講義				
23	9	国家試験対策②	練習問題				
24	6	卒業試験					
26	90						

専門分野

担当科目	歯科保健指導論Ⅲ		講師	野原 早苗 高橋 温子		
時間(単位)数	2単位	60時間	実施時期	3	学年	前期 後期
一般目標(GIO)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。					
授業概要	歯科衛生過程の進め方を学ぶ。 事例をもとに歯科衛生過程を考える。 国家試験対策					
学習方法	講義 グループワーク		成績評価の方法		筆記試験 出席率・レポート他	
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版					
参考図書	歯科衛生学シリーズ「保健生態学」 医歯薬出版					
実務経験	歯科医院での臨床経験あり					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	情報収集の目的や得られる情報を説明できる				
2		医療面接の目的を説明できる				
3		対象者の全身的な健康状態について把握できる				
4		対象者の認知および精神状態、生活に関する情報を把握できる				
5	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる				
6		歯科衛生過程における各構成要素の目的を説明できる				
7		歯科衛生過程における書面化(業務記録)の意義を説明できる				
8		事例をもとに歯科衛生過程を展開できる				
9	国家試験対策	国家試験問題を理解できる				
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						



専門分野

担当科目	歯科診療補助論 III		講師	須藤遥香 高橋温子 大森理乃		
時間(単位)数	3単位	90 時間	実施時期	3 学年	前期 後期	
一般目標(GIO)	歯科診療補助の概要を理解し、安全で円滑な歯科診療が行えるよう、専門的な知識・技術及び態度を習得する。 総合実技試験を行う。					
授業概要	医療安全及び感染予防の知識を身に付け実施出来る。 診療に必要な器具や器材の知識と取扱いを理解し習得する。 国家試験に向け実習と知識を結びつけ理解することができる。					
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	筆記試験	60%	
				実技試験	30%	
				出席・レポート	10%	
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」				医歯薬出版	
	最新歯科衛生士教本「歯科材料」「歯科器材」				医歯薬出版	
実務経験	歯科医院での臨床経験あり					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	ユニットの取扱い バキュームテクニック	歯科用ユニットの取扱いと患者対応の基本を理解する。バキュームテクニックを習得する。				
2	予診記号(相互)	相互実習にて口腔内情報を予診記号を用いてカルテに記入できる。				
3	相互実習 アルジネート印象採得	片顎の印象採得とその対応を習得する。				
4		下顎の印象採得とその対応を習得する。				
5		上顎の印象採得とその対応を習得する。				
6	相互実技試験	アルジネート全顎印象採得とその対応をスムーズに行える。				
7	保存修復時の診療補助 (漂白法)	オフィスホワイトニングの手順とホームホワイトニングについて習得する。				
8	補綴診療時の診療補助	精密印象採得に必要な器具・器材の種類や取り扱い、歯肉圧排法を習得する。				
9	矯正治療時の診療補助	矯正治療時の診療の流れを理解し、必要な器具・器材を覚える。				
10	テンポラリークラウン の製作・仮着	印象法でテンポラリークラウンを製作し、必要器具・器材と手順を理解する。				
11	口腔外科時の診療補助	滅菌法と消毒法を再確認する。				
12		外科治療前準備(手指消毒・ガウングローブの着用手順)を習得する。				
13	口腔機能管理	摂食嚥下機能とその検査について習得する。				
14	国家試験対策①	練習問題・講義				
15	国家試験対策②	練習問題・講義				
16						
17						
18						

特別科目

担当科目	臨地臨床実習Ⅱ		講師	各実習施設実習指導員	
時間(単位)数	12単位	540時間	実施時期	3 学年	前期
一般目標(GIO)	医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を修得するために現場における歯科衛生士の役割を理解し、基本的な態度を身につける。				
授業概要	各診療所の実習指導員の指導の下で基本的な態度、知識、技術を修得する。				
学習方法	臨床実習テキストⅡに基づく。		成績評価の方法	各実習所指導員の評価点数 出席点	
教科書 参考図書					
実務経験	病院・一般診療所等での実務経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	臨地臨床実習	1. 医療人としての身だしなみ、姿勢、言葉使いを身につけて行動する。			
2		2. 自己の体調管理を行う。			
3		3. 患者及び歯科医院の守秘義務を遵守する。			
4		4. 公私の区別、実習上のルールを守って実習する。			
5		5. 患者を尊重し、受容的・共感的態度で接する。			
6		6. 患者やスタッフに対して感謝と敬意を表す。			
7		7. 患者やスタッフとコミュニケーションを図り、チーム医療を理解する。			
8		8. 実習に積極的に取り組み、疑問等は自ら調べ質問する。			
9		9. 実習に対して報告、連絡、相談をする。			
10		10. レポート等の提出期限を守る。			
11		11. いろいろな対象者と積極的にかかわり、対象者を理解する努力をする。			
12		12. どんな歯科衛生士になるか、実習を通して目標を見出す。			
13					
14		歯科診療補助の施術を見学・自験をする。			
15		歯科保健指導を見学・自験をする			
16		歯科予防処置の施術を見学・自験をする			
17					
18					
19					
20					

専門分野

担当科目	秘書実務				講師	黒川亜紀子		
時間(単位)数	1単位	15	時間	実施時期	3	学年	前期	
一般目標(GIO)	医療業界で必要とされる人材、求められる人材を理解することができる。実習及び就職先で役に立てるビジネスマナー、及び接客マナーを身に付けることができる。また、社会人に必要な常識、知識を理解し、体得することを目標とする。							
授業概要	ビジネスマナーの必要性と実際に現場で即戦力として動けるよう、座学だけでなく演習ワークを取り入れる事で、「わかる」から「できる」を目指した内容で行う。 本授業は、実習先への挨拶時に着用するスーツで行い、ビジネスマナー取得を目指し行う。							
学習方法	講義、演習、ワーク			成績評価の方法	筆記試験 100% (内 身だしなみ減点有)			
教科書	指定なし。適宜プリントの配布がある為、ファイルと筆記用具を持参すること							
参考図書	患者接客マナー 基本テキスト			日本能率協会マネジメントセンター				
	患者対応マナーBOOK			医学通信社				
実務経験	なし							
授業計画								
No	授業項目	月	日	曜日	時間数	到達目標(SBOs)		
1	電話応対 1	3	17	月	1.5	社会人としての電話の掛け方、受け方の基本を身に付けることができる		
2	電話応対 2	3	17	月	1.5	実習先へのご挨拶の電話をロールプレイングにより自信を持って行うことができる		
3	訪問マナー	3	21	金	1.5	企業に訪問する際の注意点を理解し、自信を持って行うことができる		
4	来客対応マナー	3	21	金	1.5	来客時のご案内、名刺交換、席次のマナーを体得することができる		
5	仕事の進め方	7	31	木	1.5	効率的な仕事の進め方、PDCAサイクルを理解できる		
6	職場内コミュニケーション	7	31	木	1.5	先生やスタッフとの接し方、報告・連絡・相談の重要性を身に付けることができる		
7	指示命令の受け方	8	7	木	1.5	先生や先輩から指示命令を受けた際の正しい対応方法を身に付けることができる		
8	話し方、聴き方	8	7	木	1.5	患者様が安心できる「話し方」信頼できる「聴き方」を体得することができる		
9	ホスピタリティマインド	10	6	月	1.5	サービスとホスピタリティの違いを理解し患者様対応に活かす		
10	自己理解ワーク	10	6	月	1.5	自分の肯定的側面、否定的側面を知り、仕事や対人関係に役立てる方法を知る		

特別科目

担当科目	課題研究		講師	佐々木真理子	野原早苗
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	3 学年	後期
一般目標(GIO)	3年間学習した成果を集大成するために研究テーマを設定し発表する。				
授業概要	自分自身で研究テーマを設定し研究を進め論文にまとめ発表する。 身近な問題を見つけ自分で解決する。				
学習方法	論文作成 発表(パワーポイント)作成		成績評価の方法	レポート 発表 出席点	60% 30% 10%
教科書					
参考図書					
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	計画立案	講義・実習で学んだことをもとに自分自身で研究テーマを作成する。			
2	論文の作成	一定の形式で論文にまとめる。			
3	論文の作成発表	自分自身の知識・経験を整理しパワーポイントにまとめ発表する。			
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

特別科目

担当科目	総合学習		講師	川瀬 俊夫 野原早苗 佐々木 真理子各講師	
時間(単位)数	8単位	120時間	実施時期	3 学年	後期
一般目標(GIO)	歯科医療の高度化と社会環境の変化にも対応できる歯科衛生士のなるために幅広い見識、豊かな技術を身につける。				
授業概要	国家試験に向けて確実な知識・技術を習得する。				
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	筆記試験 実技試験 出席・レポート	100% 卒業試験 模擬試験
教科書	各担当講師が使用する教科書他				
参考図書	年度別歯科衛生士国家試験問題集他			医歯薬出版	
実務経験	長期に渡り臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	専門基礎科目	解剖学・組織発生学生理学・口腔生理学口腔解剖学・歯牙解剖学病理学・口腔病理学微生物学・			
2		薬理学・栄養指導・生化学口腔衛生学・衛生学、公衆衛生学・衛生行政、社会福祉学			
3	専門分野	歯科衛生士概論・歯科臨床概論・保存修復学・歯周療法学・歯内療法学・歯科補綴学			
4		口腔外科学・小児歯科学・歯科矯正学・歯科放射線学・高齢者歯科学・障がい者歯科学			
5		摂食嚥下機能学・歯科予防処置論・歯科保健指導論・歯科診療補助論			
6					
7		国家試験対策を行う。			
8		卒業試験対策を行う。			
9		全国模擬試験を行う。			
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					